豊田工業高等専門学校	電子機械工学専攻E	開講年度	平成30年度 (2018年度)

学科到達目標

専攻科教育目標

1. システムの安定性を考慮した制御法，及び電子デバイスの利用・計測技術及びスキルと安全意識を身に付けた技術者を養成する。
2. 本科で身に付けた自然科学分野に対する理解力をさらに向上した上で，電気・電子回路設計等の実践的知識を身に付けた技術者を養成する。
3. 実験，研究の背景を自ら調査・整理し，技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し，計画的，継続的に研究できる基礎的な研究能力を持つ技術者を養成する。
4. 整った章立てに従い，わかりやすい日本語で報告書を作成でき，聴衆に合わせたわかりやすい日本語で口頭発表，質疑応答することができ，TOEIC450 点相当以上の英語運用能力を持った技術者を養成する。
5. 社会における技術者の役割と責任を理解した技術者を養成する。

学習・教育到達度目標 http://www.ee.toyota-ct.ac.jp/objective.php

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	総合英語Ⅰ	90011	学修単位	2	2								市川 裕理	
一般	必修	技術者倫理	90013	学修単位	2	2								北野 孝志	
一般	選択	歴史学	90015	学修単位	2	2								京極 俊明	
一般	選択	日本の言葉と文化	90016	学修単位	2			2						玉田 沙織	
一般	選択	地域と産業	90018	学修単位	2			2						髙橋 清吾	
一般	選択	技術英語	90211	学修単位	2			2						吉岡 貴芳	
一般	選択	解析力学	91011	学修単位	2	2								榎本 貴志	
一般	選択	線形代数学	91012	学修単位	2	2								金坂 尚礼	
一般	選択	生物化学	91018	学修単位	2	2								三浦 大和	
一般	選択	原子物理学	91022	学修単位	2			2						髙村 明	
一般	選択	応用解析学Ⅰ	91023	学修単位	2			2						勝谷 浩明	
専門	選択	都市地域解析論	92023	学修単位	2			2						佐藤 雄哉	
専門	選択	インターンシップ	92211	学修単位	4	6		6						西澤 一	
専門	選択	機能性材料学	93014	学修単位	2			2						清水 利弘	
専門	選択	計測制御工学	93015	学修単位	2	2								伊藤 和晃	
専門	選択	電磁気学	93019	学修単位	2			2						塚本 武彦	
専門	選択	電子回路論	93020	学修単位	2	2								及川 大	
専門	必修	電気英語コミュニケーションⅠ	93028	学修単位	1	0.5		0.5						西澤 一	
専門	選択	応用電子デバイス	93030	学修単位	2	2								杉浦 藤虎	
専門	選択	工学数理演習	93031	学修単位	1			2						熊谷 勇喜	
専門	必修	電子機械工学特別実験	93034	学修単位	6	8		8						上木 諭,杉浦 藤虎	
専門	必修	特別研究Ⅰ	93202	学修単位	4	4		4						西澤 一	
一般	必修	総合英語Ⅱ	90012	学修単位	2							2		鈴木 基伸	
一般	選択	上級英語表現	90014	学修単位	2					2				水口 陽子	
一般	選択	応用解析学Ⅱ	91015	学修単位	2							2		金坂 尚礼	
一般	選択	統計熱力学	91016	学修単位	2							2		大森 有希子	
一般	選択	生体情報論	91019	学修単位	2					2				加藤 貴英	
一般	選択	健康科学特論	91020	学修単位	2							2		加藤 貴英	

一般	選択	初等代数	91021	学修単位	2					2			米澤 佳己	
専門	選択	信頼性工学	92012	学修単位	2					2			中村 裕紀	
専門	選択	情報システム工学	92014	学修単位	2					2			吉岡 貴芳	
専門	選択	パターン情報処理	92015	学修単位	2							2	村田 匡輝	
専門	選択	工業デザイン論	92016	学修単位	2							2	三島 雅博	
専門	選択	技術史	92017	学修単位	2							2	兼重 明宏,塚本 武彦,稲垣 宏,伊東 孝,大森 峰輝,今岡 克也	
専門	選択	生産工学	93011	学修単位	2							2	兼重 明宏	
専門	選択	材料加工プロセス	93012	学修単位	2					2			林 伸和	
専門	選択	材料強度学	93013	学修単位	2					2			中村 裕紀	
専門	選択	機械振動学	93016	学修単位	2							2	若澤 靖記	
専門	選択	燃焼工学	93017	学修単位	2					2			鬼頭 俊介	
専門	選択	流れ学	93018	学修単位	2							2	小谷 明	
専門	選択	パワーエレクトロニクス論	93022	学修単位	2					2			伊藤 和晃	
専門	選択	機械設計工学	93024	学修単位	2							2	田中 淑晴	
専門	選択	油空圧システム工学	93025	学修単位	2					2			上木 諭	
専門	選択	知識工学	93026	学修単位	2							2	西澤 一	
専門	選択	通信システム	93027	学修単位	2					2			大野 亙	
専門	選択	電気英語コミュニケーションⅡ	93029	学修単位	1					0.5		0.5	西澤 一	
専門	必修	特別研究Ⅱ	93203	学修単位	8					8		8	西澤 一	

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	90011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	Present Yourself2(Cambridge University Press)		
担当教員	市川 裕理		

到達目標

(ア)様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができる。
(イ)様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。
(ウ)英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができる。	様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を教員の助言を参考にしながら理解し、使用することができる。	様々な話題について書かれた英文を読み、関連する語彙や語法を理解し、使用することができない。
評価項目(イ)	様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。	様々な話題について、教員の助言を参考にしながら英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができる。	様々な話題について、英語によるディスカッションを行い、自分の意見を深めたり、意見交換をすることができない。
評価項目(ウ)	英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得する。	英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を教員の助言を参考にしながら習得する。	英語による効果的なプレゼンテーションを行うための知識・技能を習得できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 E4　日本と国外の文化の差異を認識している.
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、教科書の本文を学びながら情報や考えなどを適切に理解し、概要や要点をとらえることのできる読解力を養う。また、日常生活や身近な話題に関して、学んだことや経験したことに基づき、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話し、80語程度のまとまりのある文章を書いたりすることを通じて、初歩的な英語運用能力を身に付けることを目標とする。英語を学ぶことを通じて、持続可能な社会づくりに必要な多様なものの見方や考え方を理解し、外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養う。
授業の進め方・方法	教科書の内容理解を行った上で、英語によるやりとり(interaction)と発表(production)を行い、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
注意点	英和辞典（紙または電子辞書）を持参すること。_x000D_達成度目標の(ア)～（カ）は、「モデルコアカリキュラム」（英語）の「学習内容の到達目標」に準拠。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、Getting ready演習	授業目標を理解し、Getting readyについて演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を行うことができる。
		2週	A person to admireに関するディスカッション	自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion Step1:Sharing)
		3週	A person to admireに関するプレゼンテーション	評価項目に沿ってPerformance （プレゼンテーション）を行うことができる。(Skill 1: Eye contact)
		4週	A great vacation ideaに関するディスカッション	自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion Step1:Sharing)
		5週	A great vacation ideaに関するプレゼンテーション	評価項目に沿ってPerformance （プレゼンテーション）を行うことができる。(Skill 2: Body language)
		6週	Young people todayに関するディスカッション①	データをもとに自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion Step1:Sharing)
		7週	Young people todayに関するディスカッション②	データをもとに自分の意見を表現したり、相手の意見を聞いて理解することができる。(Discussion Step1:Sharing)
		8週	Young people todayに関するプレゼンテーション	評価項目に沿ってPerformance （プレゼンテーション）を行うことができる。(Skill 3: Data analysis)
	2ndQ	9週	Let me explainに関するディスカッション①	事実と意見を分けて物事をとらえ、議論を行うことができる。Reasoning
		10週	Let me explainに関するディスカッション②	事実と意見を分けて物事をとらえ、議論を行うことができる。Reasoning
		11週	Let me explainに関するプレゼンテーション	評価項目に沿ってPerformance （プレゼンテーション）を行うことができる。(Skill 4: Q&A)
		12週	In my opinionに関するディスカッション①	様々な立場からディスカッションを行うことができる。Debate

		13週	In my opinionに関するディスカッション②	様々な立場からディスカッションを行うことができる。Debate
		14週	In my opinionに関するプレゼンテーション	評価項目に沿ってPerformance （プレゼンテーション）を行うことができる。(Skill 5: Emphasizing)
		15週	総合英語 I のまとめ	これまでの内容を踏まえて、ディスカッションを行うことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	技術者倫理

科目基礎情報

科目番号	90013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	黒田・戸田山･伊勢田（編）『誇り高い技術者になろう　［第二版］』（名古屋大学出版会）ISBN：９７８-４-８１５８-０７０６-１／直江・盛永（編）『理系のための科学技術者倫理』（丸善出版）ISBN:９７８-４-６２１０-８９４６-０他		
担当教員	北野 孝志		

到達目標

(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。
(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。
(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
(エ)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。
(オ)技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	社会における技術者の役割と責任を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。	社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できる。	社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できない。
評価項目(イ)	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できない。
評価項目(ウ)	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を主体的に検討することができる。	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できる。	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E1　技術者の責任，倫理的問題と解決策の事例を知り，自ら考える素養を持つ.
学習・教育到達度目標 E2　技術と社会の関わりを歴史から学んでいる.
学習・教育到達度目標 E3　社会の仕組みと歴史を知り，他者・他国の立場から物事を考えることができる.
JABEE b　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	科学技術の進歩は我々の生活環境や社会に大きな影響を及ぼし、物質的な豊かさをもたらした反面、数々の問題も引き起こしている。そして、近年科学技術を背景とする様々な事故や不祥事が表面化するにつれ、技術者自身の責任や判断に対する自覚が求められるようになってきた。そこで、この授業では技術者が直面する倫理的問題について、具体的な事例を取り上げつつ考察し、技術者としていかにあるべきかを追究していく。
授業の進め方・方法	それぞれの授業内容についてパワー・ポイントを使って説明し、技術士一次試験適性科目過去問などを通して理解度を確認する。過去の事例のビデオや資料なども適宜利用し、倫理的な問題点や解決策についてグループで考えたりといったことも行う。
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	技術者倫理とは：その背景と取り組み	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。
		2週	技術者の責任：プロフェッションとしての技術者の特徴とその責任	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。
		3週	技術者の責任：法的責任と倫理的責任、責任ある技術者	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。
		4週	法的責任と倫理的責任：法の限界と倫理、倫理綱領とその意義	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。
		5週	倫理問題の解決策	(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。
		6週	安全性とリスク:リスク概念の導入、本質安全と制御安全	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		7週	安全性とリスク：受け入れ可能なリスクと技術的逸脱の標準化	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		8週	安全性とリスク:リスク評価、安全性と設計	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
	2ndQ	9週	安全性とリスク：ヒューマンエラーと集団思考	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		10週	技術と環境：公害と公害輸出	(エ)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。

		11週	技術と環境：地球環境問題、環境と設計	(エ)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。
		12週	消費者保護の視点：不法行為法と製造物責任法	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		13週	消費者保護の視点：説明責任	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		14週	組織の一員としての技術者：職務発明と守秘義務、内部告発と公益通報者保護法	(オ)技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。
		15週	授業のまとめ	(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	歴史学

科目基礎情報

科目番号	90015	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	姫岡とし子　「ヨーロッパの家族史」　（山川出版社）／プリント、山川出版社「世界史リブレット」シリーズ		
担当教員	京極 俊明		

到達目標

(ア)歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。
(イ)自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、まとめることができる。
(ウ)報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。
(エ)現代社会の問題と過去の世界との関連について考察することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。	歴史学の基本的な手法について理解することができる。	歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができない。
評価項目(イ)	自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査・報告し、自分の見解を述べることができる。	自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができる。	自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができない。
評価項目(ウ)	報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。	報告と質疑応答に参加し、議論を行う事ができる。	報告と質疑応答に参加し、議論と改善を行う事ができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E2　技術と社会の関わりを歴史から学んでいる.
学習・教育到達度目標 E3　社会の仕組みと歴史を知り，他者・他国の立場から物事を考えることができる.
JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
JABEE b　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	この授業では、歴史学の基本的な知識と方法論を学び、民族、宗教、文化などが異なる社会への理解力を高めることを課題とする。まず導入として、「ヨーロッパの家族史」を取り上げ、報告を行う。その後、おもに「世界史リブレット」シリーズから、異文化理解に関係する題材を各学生が選び、報告と質疑応答を行う。
授業の進め方・方法	
注意点	報告の際には、豊田高専図書館所蔵の「世界史リブレット」シリーズを活用して欲しい。関心があれば、より高度な専門書を用いても良い。また報告の準備のための予習、報告時に指摘された問題点についての復習を行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イントロダクション	歴史学の多様な方法論について理解できる。
		2週	歴史学の方法論	歴史学の多様な方法論について理解できる。
		3週	ヨーロッパの家族史報告（第1章）	テキスト「ヨーロッパの家族史」第1章についての報告と質疑応答ができる。
		4週	ヨーロッパの家族史報告（第２，３章）	テキスト「ヨーロッパの家族史」第２．３章について報告と質疑応答ができる。
		5週	ヨーロッパの家族史報告（第４，５章）	テキスト「ヨーロッパの家族史」第４，５章について報告と質疑応答ができる。
		6週	学生報告（１）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		7週	学生報告（２）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		8週	学生報告（３）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
	2ndQ	9週	学生報告（４）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		10週	学生報告（５）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		11週	学生報告（６）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		12週	学生報告（７）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		13週	学生報告（８）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		14週	学生報告（９）、報告内容は各自が選択（報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		15週	現代の諸問題と歴史学の意義	歴史学と現代の諸問題の関係について理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計

総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	日本の言葉と文化

科目基礎情報

科目番号	90016	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	適宜プリントを配布する。		
担当教員	玉田 沙織		

到達目標

(ア)自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。
(イ)文および文章の構造を理解し、適切に表現することができる。
(ウ)様々な論証の方法を理解し、目的に応じて適切に活用できる。
(エ)目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる論作文・レポートを作成できる。
(オ)作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用し、研究報告を作成できる。	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できない。
評価項目(イ)	文および文章の構造を理解し、適切に表現し、研究報告を作成できる。	文および文章の構造を理解し、適切に表現することができる。	文および文章の構造を理解し、適切に表現することができない。
評価項目(ウ)	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成した上で研究発表を行うことができる。	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成できる。	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成することができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D2　研究内容を聴衆に合わせて分かりやすい日本語で発表できる.
学習・教育到達度目標 E4　日本と国外の文化の差異を認識している.
 JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	論理的な日本語力を身につけるための実践的トレーニングを行う。具体的には、文章表現の基礎として日本語の文構造および語順について学んだ上で、情報収集・分析・整理そして論証についての理論学習および実践を行う。
授業の進め方・方法	今後の進学・就職を見据えて、論理力およびそれに根ざした日本語力を鍛えることを目的とする。論作文・レポートのテーマ候補は授業担当者が予め準備しているが、受講者と相談しつつ調整する。
注意点	本科4年次「日本語表現」の学習内容はすべて習得済みであることを前提に授業を進める。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ガイダンス（到達目標の提示と注意点の確認）	到達目標と注意点を理解できる。論理力とは何かを理解できる。
		2週	論理力を養う１（文構造）	文構造を正しく理解・表現することができる。
		3週	論理力を養う２（語順）	語順を正しく理解・表現することができる。
		4週	論理力を養う３（情報収集・論証）	目的に応じた適切な情報収集・論証を理解し、実践することができる。
		5週	論理力を養う４（要約）	文章の構成や展開を理解し、要約することができる。
		6週	論理力を養う５（引用）	自他の意見の区別と引用について理解し、実践することができる。
		7週	論理力を養う６（ブレーンストーミング法・論作文１）	目的に応じて思考を整理し、400字程度の文章を書くことができる。
		8週	論理力を養う７（論作文２）	目的に応じて思考を整理し、800字程度の文章を書くことができる。
	4thQ	9週	論理力を養う８（レポート議論・構想）	目的に応じて思考を整理し、2400字程度の文章を書く。テーマについてグループで議論し、構想を練る。
		10週	論理力を養う９（レポート情報収集）	目的に応じて思考を整理し、2400字程度の文章を書く。選んだテーマについて情報収集を行い、グループで共有・再議論を行う。
		11週	論理力を養う10（レポート執筆）	目的に応じて思考を整理し、2400字程度の文章を書く。選んだテーマについてレポートを執筆する。
		12週	論理力を養う11（レポート推敲）	目的に応じて思考を整理し、2400字程度の文章を書く。完成したレポートを相互に添削し、清書する。
		13週	論理力を養う12（プレゼンテーション１）	目的に応じた適切なプレゼンテーションについて理解できる。
		14週	論理力を養う13（プレゼンテーション２）	目的に応じた適切なプレゼンテーションが実践できる。
		15週	まとめ	学習内容・学習成果を振り返り、整理できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合				
	定期試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	50	20	30	100
分野横断的能力	50	20	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	地域と産業

科目基礎情報

科目番号	90018	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特になし。／新詳高等地図を毎回持参すること。		
担当教員	髙橋 清吾		

到達目標

(ア)農業立地論の基礎を理解できる。
(イ)工業立地論の基礎を理解できる。
(ウ)中心地論の基礎を理解できる。
(エ)地域構造論の基礎を理解できる。
(オ)地域問題の生じる要因を理解できる。
(カ)主要国におけるエネルギー生産の特徴と日本などの具体例を説明できる。

ルーブリック

	到達レベルの目安(優)	到達レベルの目安(良)	到達レベルの目安(不可)
立地論の基礎	現実の地域の成り立ちを、立地論に当てはめて説明することができる。	農業、工業、都市の立地論の基礎を理解することができる。	立地論の考え方を理解することができない。
地域構造と地域問題	具体的な地域問題を取り上げ、その発生要因を、地域構造の成り立ちを踏まえて説明することができる。	地域問題の基礎を理解することができる。	地域構造の基礎を理解することができない。
地域とエネルギー	様々なエネルギーの特性を踏まえて、地域におけるエネルギーの生産や活用方法を提案することができる。	エネルギー問題の基礎を理解することができる。	エネルギー問題の基礎を理解することができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E3　社会の仕組みと歴史を知り，他者・他国の立場から物事を考えることができる.
JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	現代日本は多くの社会的，地域的な問題を抱えている。2011年以降は，人口減少時代における地方圏の衰退だけでなく，地方圏におけるエネルギー生産の方式と立地も重要な関心事となっている。これらはいずれも日本の将来を築くための重要なテーマであり，我々は，それら諸問題の生じる仕組み，それらに対抗するための考え方について理解する必要がある。そのために，「地域と産業」では，経済地理学の基礎的な理論をおさえるとともに，近代化や経済成長が，日本の地域構造やエネルギー生産方式の変動に与えた影響について外国の事例も紹介しつつ概説する。
授業の進め方・方法	講義、ディスカッション、発表等。
注意点	授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	社会科学と経済地理学	社会科学と経済地理学の基礎を理解することができる。
		2週	社会科学と経済地理学	社会科学と経済地理学の基礎を理解することができる。
		3週	社会科学と経済地理学	社会科学と経済地理学の基礎を理解することができる。
		4週	経済地理学の理論①農業立地論	農業立地論の基礎を理解することができる。
		5週	経済地理学の理論①農業立地論	農業立地論を適用して、実際の農業地域を説明することができる。
		6週	経済地理学の理論②工業立地論	工業立地論の基礎を理解することができる。
		7週	経済地理学の理論②工業立地論	工業立地論を適用して、実際の工業地域を説明することができる。
		8週	経済地理学の理論③中心地論	中心地論の基礎を理解することができる。
	4thQ	9週	経済地理学の理論③中心地論	中心地論を適用して、実際の工業地域を説明することができる。
		10週	日本の地域構造と地域問題	地域構造と地域問題の基礎を理解することができる。
		11週	日本の地域構造と地域問題	地域問題の生じる要因を地域構造の在り方を踏まえて理解することができる。
		12週	産業立地の地域的展開：日本における主要工業地域の変遷	これまでの理論を踏まえて、日本の主要工業地域の在り方を理解することができる。
		13週	主要国のエネルギー生産の方式と再生可能エネルギーの利用と現状	エネルギー問題を踏まえて、新エネルギーの開発・普及を理解することができる。
		14週	主要国のエネルギー生産の方式と再生可能エネルギーの利用と現状	様々なエネルギーの特性を踏まえて、地域におけるエネルギーの生産や活用方法を提案することができる。
		15週	まとめ	これまでの内容を整理し、理解を深める。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
分野横断的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	技術英語

科目基礎情報

科目番号	90211	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「理工系学生のための英語プレゼンテーション 第2版」吉田 宏予他（マクミランランゲージハウス），ISBN978-4-7773-6262-2／リスニング教材：Voice of America Special English(VOA)，Living English (Australian Network)など		
担当教員	吉岡 貴芳		

到達目標

(ア)英語プレゼンテーションの技法や英語表現を用い、技術系発表用パワーポイントと原稿が作成できる。(f)(g)
(イ)英語によるプレゼンテーションを、適切なオーラル表現法を用いて発表できる。(f)
(ウ)毎分100語程度で話される外国人向けに作られた技術系英語ニュースを聴き、その概要を聴き取ることができる。(f)
(エ)毎分50語程度の速度で、自己紹介・製品説明程度の英文を1分間話し続けられる。(f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(可)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	英語プレゼンテーションの技法や英語表現を正確に用いた技術系発表用パワーポイントと原稿を正確に作成し、適切なオーラル表現法を用いて正確に発表できる。(f,g)	英語プレゼンテーションの技法や英語表現を用いた技術系発表用パワーポイントと原稿を作成し、適切なオーラル表現法を用いて発表できる。(f,g)	英語プレゼンテーションの技法や英語表現を用いた技術系発表用パワーポイントと原稿を作成できず、適切なオーラル表現法を用いて発表できない。(f,g)
評価項目(イ)	毎分100語程度で話される外国人向けに作られた技術系英語ニュースを聴き、その概要を85%程度正確に聴き取ることができる。(f)	毎分100語程度で話される外国人向けに作られた技術系英語ニュースを聴き、その概要を60%程度正確に聴き取ることができる。(f)	毎分100語程度で話される外国人向けに作られた技術系英語ニュースを聴き、その概要を60%程度正確に聴き取ることができない。(f)
評価項目(ウ)	毎分50語程度の速度で、自己紹介・製品説明程度の英文を2分間話し続けられる。(f)	毎分50語程度の速度で、自己紹介・製品説明程度の英文を1分間話し続けられる。(f)	毎分50語程度の速度で、自己紹介・製品説明程度の英文を1分間話し続けられない。(f)

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 D5　自律的，継続的な学習により，TOEIC450点相当以上の英語運用能力を身につけている.
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	技術のグローバル化に伴い，英語によるコミュニケーション・スキルの習得は，国内外での活動が期待される技術者にとり不可欠となっている。本講では，英語関連科目および専門基礎科目で学んできた英語に関する知識・スキルの定着のために，主として，オーラルコミュニケーションの基盤確立を目指すとともに、簡単な技術系プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	小テストは、フリースピーキング、リスニング聴き取り、プレゼンテーション口頭発表について評価する。定期試験はリスニング聴き取り、プレゼンテーション技法について評価する。（自学自習内容）授業内容に該当する項目について必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また与えられた自習課題は確実に解いておくこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	英語オーラルコミュニケーション演習のねらいと効果、および演習の進め方の解説	英語オーラルコミュニケーション演習のねらいと効果、および演習の進め方の解説を理解できる。
		2週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		3週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		4週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		5週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		6週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		7週	英語プレゼンテーション技法	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		8週	英語プレゼンテーション作成	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
	4thQ	9週	英語プレゼンテーション作成	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		10週	英語プレゼンテーション作成	英語プレゼンテーションのための技法を理解する。
		11週	英語プレゼンテーションスピーキング演習	英語プレゼンテーションのための技法を用いて，口頭で簡単なプレゼンテーションスピーチができる。
		12週	技術系英語ニュースのリスニング演習	100語／分で話される４分～５分程度の技術系英語ニュースを聞き取り、概要に関する問題に６割程度答えることができる。
		13週	英語フリースピーキング演習	与えられたテーマについての英語による短時間スピーチができる。
		14週	研究発表用英語プレゼンテーション作成	卒業研究の英語プレゼンテーションのために、習得した技法を用いたパワーポイントを作成できる。
		15週	研究発表用英語プレゼンテーション発表練習	卒業研究の英語プレゼンテーションのために、習得した技法を用いたパワーポイントを作成し、口頭でプレゼンテーションスピーチができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	小テスト	合計
総合評価割合	60	40	100
分野横断的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	解析力学

科目基礎情報

科目番号	91011	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「理・工基礎　解析力学」 田辺　行人・品田　正樹　著（裳華房）		
担当教員	榎本 貴志		

到達目標

(ア)簡単な系について，仮想仕事の原理を用いて，系のつり合いの条件を調べることができる。
(イ)系の安定・不安定を調べることができる。
(ウ)ダランベールの原理を使って，運動力学から静力学の視点に移すことができる。
(エ)簡単な系の運動について，ラグランジュの運動方程式を立て，求めることができる。
(オ)連成振動をする質点系について，ラグランジュの運動方程式を立て，基準振動数を評価できる。
(カ)物理的な意味を理解した上で，オイラーの微分方程式を使うことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	仮想仕事の原理，およびダランベールの原理を用いて，系のつり合いの条件に関する応用問題を解くことができる。	仮想仕事の原理，およびダランベールの原理を用いて，系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができる。	仮想仕事の原理，およびダランベールの原理を用いて，系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができない。
評価項目(イ)	ラグランジュの運動方程式を用いて，振動する系についての応用問題を解くことができる。	ラグランジュの運動方程式を用いて，振動する系についての基礎的な問題を解くことができる。	ラグランジュの運動方程式を用いて，振動する系についての基礎的な問題を解くことができない。
評価項目(ウ)	オイラーの微分方程式を使って，極値問題に関する応用問題を解くことができる。	オイラーの微分方程式を使って，極値問題に関する基礎的な問題を解くことができる。	オイラーの微分方程式を使って，極値問題に関する基礎的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	本講義では，解析力学を学ぶ。力学の大きな流れから言うと，解析力学は，ニュートン力学（古典力学）と量子力学の掛け橋的な立場にある。解析力学の一番の特徴は，系の運動を，運動力学といった視点から静力学という視点に移し変えて議論する点にある。また，質点系の位置・速度・加速度や力といった観点ではなく，質点系のエネルギという観点から，系を取り扱うという特徴もある。これにより，より複雑な質点系の運動を取り扱うことができるのである。
授業の進め方・方法	
注意点	古典力学を，ある程度理解しているという前提の上で，講義を行う。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	仮想仕事の原理： 束縛力と既知力，仮想変位，仮想仕事の原理	力の分類（束縛力・既知力）ができ，仮想仕事の概念が説明できる。
		2週	仮想仕事の原理 ：束縛力と既知力，仮想変位，仮想仕事の原理	簡単な系で，仮想変位を調べ，仮想仕事を求めることができる。
		3週	仮想仕事の原理 ：束縛力と既知力，仮想変位，仮想仕事の原理	既知力が保存力であるような系について，位置エネルギから仮想仕事を求めることができる。また，系の平衡の安定性について判別できる。
		4週	ダランベールの原理 ：ダランベールの原理と慣性力	ダランベールの原理を使って，運動学的視点から静力学的視点に写すことができる。
		5週	ダランベールの原理 ：ダランベールの原理と慣性力	定常状態にある系について，ダランベールの原理，および仮想仕事の原理を用いて，仮想仕事を求めることができ。
		6週	ラグランジュの第一種運動方程式： 未定乗数法，ラグランジュの第一種運動方程式	簡単な系について，ラグランジュの未定乗数法を適応することができる。
		7週	ラグランジュの第一種運動方程式： 未定乗数法，ラグランジュの第一種運動方程式	ラグランジュの第一種運動方程式を用いて，具体的な運動方程式を求め，それを解くことができる。
		8週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式	座標の一般化と，それに伴う力の一般化の概念が理解できる。
	2ndQ	9週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式	座標の一般化に応じて，仮想仕事の原理の式を書き換えることができる。
		10週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式	１個の質点から成る振動系について，ラグランジュの第２種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
		11週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子	２個以上の質点が作用し合いながら振動する系について，第２種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
		12週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子	連成振動系の基準振動を求め，それぞれの振動モードに対する振動現象を理解することができる。
		13週	変分法 ：変分法，オイラーの微分方程式	物理量の極値を求めるに当たり，オイラーの微分方程式をどのように使うか説明できる。

		14週	変分法 ：変分法，オイラーの微分方程式	歴史上有名な諸問題（最速降下線など）について，オイラーの微分方程式がどのように使われているか説明することができる。
		15週	ハミルトンの原理 ：ラグランジュ関数，ハミルトンの原理	束縛条件の下での極値問題の取り扱いの仕方について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	線形代数学

科目基礎情報

科目番号	91012	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「理工系の入門線形代数」 裕野敏博・原裕子・山辺元雄（学術図書出版社） ISBN:978-4-87361-219-5		
担当教員	金坂 尚礼		

到達目標

(ア)行列の基本的な演算（定数倍、加法、減法や積等）ができる.
(イ)連立１次方程式を、行列を用いて表現し, 解くことができる.
(ウ)行列の階数の概念を理解し、具体的な行列の階数を求めることができる.
(エ)行列式の性質を理解したうえで行列式の値を求めることができる.
(オ)さまざまな正則行列の逆行列を求めることができる.
(カ)ベクトルの線形従属・線形独立の概念を理解し、幾つかのベクトルが線形独立か線形従属かを判定できる。
(キ)線形空間に関する諸概念を理解している.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	行列や連立１次方程式に関する発展的な問題が解ける。	行列や連立１次方程式に関する基礎的な問題が解ける。	行列や連立１次方程式に関する基礎的な問題が解けない。
評価項目2	行列式に関する発展的な問題が解ける。	行列式に関する基礎的な問題が解ける。	行列式に関する基礎的な問題が解けない。
評価項目3	線形空間や線形写像についての発展的な問題が解ける。	線形空間や線形写像についての基礎的な問題が解ける。	線形空間や線形写像についての基礎的な問題が解けない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B1　自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	この授業では，行列やベクトルといった考え方相互の有機的な関係を理解し，さらにそれらの計算技法の背後にある内在的な性質を理解することを目指す．このことができて初めて線形代数学を理工学の分野で縦横に応用することが可能となる．一般に「線形」な事象はその解析及び理解が比較的容易であり，線形代数学で学ぶ個々の事柄が大いに役に立つことは言うまでもない．受講者諸氏には行列やベクトルに関する１つ１つの計算技術をしっかり身につけた上で，線形代数学が対象とする「線形性」とはいったい何なのかを理解して欲しい.
授業の進め方・方法	
注意点	必要に応じて復習は行うが，「平面・空間ベクトル」や「行列」, それらの「和」・「差」・「定数倍」, 行列の「積」等について，その定義および簡単な性質は既知であるものとして授業を進める。(自学自習内容) 授業ごとにかならず復習を行い, 学習内容の理解に努めること。授業内容に関する課題を適宜提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	「行列」：行列に関する基礎概念やその演算に関する事項の復習	行列に関する基礎概念を理解し，その演算ができる。
		2週	「連立１次方程式」：行列の基本変形と連立1次方程式の解法	行列の基本変形を理解し，連立1次方程式を解くことができる。
		3週	「連立１次方程式」：行列の基本変形と連立1次方程式の解法	行列の基本変形を理解し，連立1次方程式を解くことができる。
		4週	「連立１次方程式」：掃き出し法による逆行列の計算	掃き出し法による逆行列の計算ができる。
		5週	「連立１次方程式」：（拡大）係数行列の階数と連立１次方程式の解の関係の理解	（拡大）係数行列の階数と連立１次方程式の解の関係について理解する。
		6週	「行列式」：行列式の基本性質と行列式の計算	行列式の基本性質について理解し，行列式の計算ができる。
		7週	「行列式」：行列式の基本性質と行列式の計算	行列式の基本性質について理解し，行列式の計算ができる。
		8週	「行列式」：逆行列の計算とクラメルの公式	逆行列の計算とクラメルの公式について理解する。
	2ndQ	9週	「線形空間」：線形空間の定義および例	線形空間の定義および例を理解する。
		10週	「線形空間」：線形従属と線形独立, 線形空間の次元	線形従属と線形独立, 線形空間の次元について理解する。
		11週	「線形空間」：線形従属と線形独立, 線形空間の次元	線形従属と線形独立, 線形空間の次元について理解する。
		12週	[線形写像」：線形写像とその表現行列	線形写像とその表現行列について理解する。
		13週	[線形写像」：線形写像とその表現行列	線形写像とその表現行列について理解する。
		14週	総合演習	問題演習によって理解を確認する。
		15週	総合演習	問題演習によって理解を確認する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100

分野横断的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	生物化学

科目基礎情報

科目番号	91018	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「生物を知るための生化学（第４版）」池北雅彦ほか（丸善）ISBN:978-4-621-30222-4／プリントを配布		
担当教員	三浦 大和		

到達目標

(ア)細胞を構成する物質とその役割を説明できる。
(イ)単糖類や多糖類の構造が表記でき，多糖類のグリコシド結合や生体内における役割を説明できる。
(ウ)糖の代謝について仕組みを理解でき，エネルギー効率を算出できる。
(エ)側鎖によるアミノ酸の分類ができ，アミノ酸の化学的な性質およびタンパク質のペプチド結合を説明することができる。
(オ)タンパク質の高次構造形成に関与する化学結合および相互作用を理解し，説明できる。
(カ)タンパク質の立体構造と機能発現の関連性を理解できる。
(キ)核酸の成分と種類を理解し，DNAとRNAの役割を説明できる。
(ク)遺伝子であるDNAの複製と修復の仕組みを理解し，説明できる。
(ケ)DNAの情報がタンパク質合成に用いられる仕組みを理解し，説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	細胞を構成する物質とその役割について具体的な物質名とその特徴をまじえて働きを説明できる。	細胞を構成する物質とその役割を説明できる。	細胞を構成する物質やその役割についての説明ができない。
評価項目(イ)	単糖類や多糖類の構造が記述し，その構造的特徴を説明でき、グリコシド結合や生体内における役割を化合物名を挙げ説明できる。	単糖類や多糖類の構造が表記でき，多糖類のグリコシド結合や生体内における役割を説明できる。	単糖類モニクは多糖類の構造が表記できず，その役割の概要も説明できない。
評価項目(ウ)	糖の代謝について仕組みを具体的な化合物名を挙げ説明し、そのエネルギー効率の算出ができる。	糖の代謝について仕組みを理解でき，エネルギー効率を算出できる。	糖の代謝について仕組みの概要を理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	生物の行っている複雑かつ精巧な機能は，生体を構成する最小単位である細胞の集積・組織化によって発現される。本講義では，科学的視点から細胞を構成する生体物質の構造と性質について学び，各々の生体物質がその性質を生かし，どのようにして機能を獲得しているか理解を深め，細胞の仕組みに関する基礎的で不可欠な見識を養う。
授業の進め方・方法	講義形式で行い、適宜プレゼン課題を行う。
注意点	化学IIBと化学IIIの基本的な内容を理解できていることが望ましい。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	講義概要説明と生命の起源	生物の分類と地質年代による生物進化を理解する。
		2週	生物を構成する元素と細胞	生物を構成する主要元素から極微量元素の種類と存在場所や主な働きを理解する。
		3週	光学異性体（鏡像異性体）とD, L表記法	生体構成化合物の糖・アミノ酸の光学異性体の表記法を理解する。
		4週	糖とその代謝I：生体に含まれる単糖（６単糖，５単糖）	生体構成単糖（６単糖，５単糖）の種類と構造、性質を理解する。
		5週	糖とその代謝II：生体を構成する多糖類とグリコシド結合（でんぷん，セルロース）	生体構成多糖類（でんぷん，グリコーゲン・セルロース）の種類と構造、性質を理解する。
		6週	糖とその代謝III：エネルギー獲得の代謝メカニズム（解糖系・TCA回路・電子伝達系と酸化的リン酸化）	糖の代謝を理解する。（細胞内呼吸とATPメカニズム）
		7週	糖とその代謝III：エネルギー獲得の代謝メカニズム（解糖系・TCA回路・電子伝達系と酸化的リン酸化）	糖の代謝を理解する。（電子伝達系と酸化的リン酸化）
		8週	タンパク質I：アミノ酸の分類および化学的・生物学的性質とタンパク質のペプチド結合	生体構成アミノ酸の種類と構造、性質を理解する。
	2ndQ	9週	タンパク質II：タンパク質の一次および高次構造と機能の関係	安定寄与因子をまじえ構造を説明でき、その高次構造の特徴を表記できる。
		10週	核酸とタンパク質の生合成I：細胞核内の核酸(DNAとRNA)の構造（DNAの二重らせん構造と相補的塩基対）	DNAの半保存的複製の仕組みを理解する。
		11週	核酸とタンパク質の生合成II：核酸の複製・修復メカニズム	核酸の複製・修復メカニズムを理解する。
		12週	核酸とタンパク質の生合成III：遺伝コードと遺伝発現のメカニズム	点突然変異（スニップス）と遺伝発現のメカニズムを理解する。
		13週	核酸とタンパク質の生合成III：遺伝コードと遺伝発現のメカニズム	遺伝の法則を理解し、代表的遺伝子疾患について理解する。
		14週	核酸とタンパク質の生合成IV：タンパク質の生合成メカニズム	DNAとRNAの役割を理解し、セントラルドグマの流れを理解する。
		15週	前期のまとめ	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	75	25	100
分野横断的能力	75	25	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	原子物理学

科目基礎情報

科目番号	91022	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない／最先端の科学記事と授業プリントを配布		
担当教員	髙村 明		

到達目標

(ア)ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。
(イ)放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。
(ウ)原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	ヤングの干渉実験やブラック反射の問題が解ける。	ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。	ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解けない。
評価項目(イ)	放射性元素に関連した問題が解ける。	放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。	放射性元素に関連した基礎的問題が解けない。
評価項目(ウ)	原子モデルや光電効果に関連した問題が解ける。	原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。	原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解けない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	原子・分子といったミクロの世界ではニュートン力学、マックスウエルの電磁気学、流体力学などはもはや成立せず、人間が物質に対してもつ自然な感覚や考え方は成立しない。ミクロな世界はマクロな世界と違って、粒子と波動の性質をあわせ持つことが本質あることが２０世紀の物理学で明らかになった。粒子は大きさがなく、エネルギーや運動量を持つのに対し、波動は広がりがあり、波の強さや波長を持つので、両者は異なるからのである。この講義では２０世紀に発展したミクロの世界の物理学を学ぶ。
授業の進め方・方法	最先端の科学記事と授業プリントを配布
注意点	授業後に科学記事と授業プリントを必ず復習し，学習内容の理解を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	既習事項の確認	本科の内容を総括的に理解する
		2週	力学の復習	力学の基礎的な問題が解ける
		3週	電気の復習	電気の基礎的な問題が解ける
		4週	力学と電気の総復習	力学と電気の問題が解ける
		5週	ヤングの干渉実験とブラック反射	ヤングの干渉実験とブラック反射を理解する
		6週	原子核と電子からなる原子	原子の構造を理解する
		7週	問題演習	これまでの内容を総括的に理解する
		8週	放射性元素と年代測定	放射性元素の意味を理解する
	4thQ	9週	光電効果と光の粒子性	光電効果の意味を理解する
		10週	問題演習	これまでの内容を総括的に理解する
		11週	総合演習	これまでの内容を総括的に理解する
		12週	原子スペクトルとボーアの量子条件	ボーアの量子条件を理解する
		13週	ド・ブロイの物質波と電子顕微鏡	ド・ブロイの物質波の意味を理解する
		14週	問題演習	これまでの内容を総括的に理解する
		15週	総合演習	これまでの内容を総括的に理解する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
分野横断的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用解析学 I

科目基礎情報

科目番号	91023	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない．／教材プリントを配布		
担当教員	勝谷 浩明		

到達目標

(ア)ラプラス変換の定義や性質を理解する.
(イ)ラプラス変換の計算ができる.
(ウ)ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式を解ける.
(エ)フーリエ級数の定義や性質を理解する.
(オ)フーリエ級数の計算ができる.
(カ)フーリエ変換の定義や性質を理解する.
(キ)フーリエ変換の計算ができる.
(ク)フーリエ級数・フーリエ変換を用いて重要な偏微分方程式を解けく方法を理解する.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(1)	ラプラス変換の性質及び計算法を理解して，微分方程式の解法に応用できる.	ラプラス変換の性質及び計算法を理解している.	ラプラス変換の性質及び計算法を理解してない.
評価項目(2)	フーリエ級数の性質及び計算法を理解して，偏微分方程式の解法に応用できる.	フーリエ級数の性質及び計算法を理解している.	フーリエ級数の性質及び計算法を理解していない.
評価項目(3)	フーリエ変換の性質及び計算法を理解して，偏微分方程式の解法に応用できる.	フーリエ変換の性質及び計算法を理解している.	フーリエ変換の性質及び計算法を理解している.

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B1　自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	ラプラス変換やフーリエ変換は，自動制御や電気回路や構造物の振動解析など工学の様々な分野で利用される重要な手法である．本科目では，フーリエ級数も含めて，これらの定義や性質を学び，計算法を習得する．そして応用として，工学的に重要な微分方程式の解法を学ぶ.
授業の進め方・方法	
注意点	（自学自習内容）配付する教材プリントを読んで予習・復習し，プリントに記載された問題を解くこと.

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	微分積分の復習	科目の理解に必要な微分積分の計算などをを理解する.
		2週	ラプラス変換の定義と性質	ラプラス変換の定義と性質とを理解する.
		3週	ラプラス変換の計算	ラプラス変換の計算法を理解する.
		4週	逆ラプラス変換	逆ラプラス変換の性質と計算法を理解する.
		5週	ラプラス変換による定数係数線形微分方程式の解法	定数係数線形微分方程式のラプラス変換を用いた解法を理解する.
		6週	ラプラス変換による定数係数線形微分方程式の解法	定数係数線形微分方程式のラプラス変換を用いる解法を理解する.
		7週	フーリエ級数の定義と性質	周期2nの周期関数のフーリエ級数を理解する.
		8週	フーリエ級数の拡張	周期関数のフーリエ級数を理解する.
	4thQ	9週	フーリエ級数の変種	フーリエ正弦級数及びフーリエ余弦級数の性質と計算法を理解する.
		10週	フーリエ級数の計算	フーリエ級数の計算法を理解する.
		11週	フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法	偏微分方程式のフーリエ級数を用いる解法を理解する.
		12週	フーリエ変換の定義	複素形フーリエ級数からフーリエの積分公式が導かれることを理解する.
		13週	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の性質を理解する.
		14週	フーリエ変換の計算	フーリエ変換の計算を理解する.
		15週	フーリエ変換を用いる偏微分方程式の解法	偏微分方程式のフーリエ変換を用いる解法を理解する.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	40	20	40	100
分野横断的能力	40	20	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	都市地域解析論

科目基礎情報

科目番号	92023	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない／適宜、プリントを配布する		
担当教員	佐藤 雄哉		

到達目標

(ア)空間解析を行うことの意味を理解し、説明できる。
(イ)GISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。
(ウ)地図の種類や表現手法を説明できる。
(エ)統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。
(オ)空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。
(カ)地図など既存の画像データなどをGISソフトを用いて幾何補正することができる。
(キ)GISソフトを使用して、空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	空間解析を行うことの意味その実際、GISの仕組みとその有用性について理解し、応用的な事例について説明できる。	空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。	空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解しておらず、実例と関連付けて説明できない。
評価項目(イ)	地図の種類や表現手法を説明できるとともに、その活用事例を考察することができる。また、統計データの整備状況とその活用実態を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。さらに、空間解析手法を活用した応用的な地域分析について理解し、実際に取り組める。	地図の種類や表現手法を説明できるとともに、統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。	地図の種類や表現手法を説明できず、統計データの整備状況を理解しておらず、実地域の統計データを使用して現状を把握できていない。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解しておらず、実際に取り組めない。
評価項目(ウ)	GISソフトを使用して、空間的データから複合的に地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図など複数の既存の画像データなどをGISソフトを用いて幾何補正することができる。	GISソフトを使用して、空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図など既存の画像データなどをGISソフトを用いて幾何補正することができる。	GISソフトを使用して、空間的データから地域の課題や特徴を把握することができない。また、地図など既存の画像データなどをGISソフトを用いて幾何補正することができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ② 基礎学力
本校教育目標 ③ 問題解決能力

教育方法等

概要	都市・地域の情報を地理的に分析し、その科学的な結果を根拠とし都市計画や都市政策における意思決定に反映させることは重要である。現在、産官問わず都市計画に係る多くの実務においてGIS（Geographic Information System：地理情報システム）が活用されており、今後なお一層の利活用が期待される。本科目では、都市・地域の課題を明らかにするための知識や技能の習得を目指す。
授業の進め方・方法	本講義では、定量的に都市・地域を解析するための理論を学ぶとともに、実際にGISソフトを用いて身近な都市・地域のデータを分析することにより、都市・地域の課題を明らかにするための手法を学ぶ。
注意点	（自学自習内容）授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	地理情報システム（GIS）の概要：地図の表現手法（凡例・縮尺）、地理情報データの構成要素、投影法	地理情報システム（GIS）の概要を理解している。
		2週	GISの適用事例：防災、防犯、マーケティングなど	GISの適用事例を考察できる。
		3週	地理情報のデータベース化：ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など	地理情報のデータベース化について説明できる。
		4週	地理情報のデータベース化：ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など	地理情報のデータベース化について説明できる。
		5週	地域の問題の可視化：統計データ（国勢調査等）を活用した小地域の分析など	地域の問題を可視化するための分析手法を説明できる。
		6週	地域の問題の可視化：統計データ（国勢調査等）を活用した小地域の分析など	地域の問題を可視化するための分析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
		7週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など	空間解析手法の概要について理解している。
		8週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
	4thQ	9週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
		10週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
		11週	GISソフトの種類や活用法：幾何補正、GISデータを活用した地域解析など	GISソフトの種類や活用法を説明できる。
		12週	GISソフトの種類や活用法：幾何補正、GISデータを活用した地域解析など	GISソフトを用いて、幾何補正や地域解析に取り組める。

		13週	GISソフトの種類や活用法：幾何補正、GISデータを活用した地域解析など	GISソフトを用いて、幾何補正や地域解析に取り組める。
		14週	GISソフトの種類や活用法：幾何補正、GISデータを活用した地域解析など	GISソフトを用いて、幾何補正や地域解析に取り組める。
		15週	GISソフトの種類や活用法：幾何補正、GISデータを活用した地域解析など	GISソフトを用いて、幾何補正や地域解析に取り組める。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	30	20	100
分野横断的能力	50	30	20	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	インターンシップ

科目基礎情報

科目番号	92211	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実習	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	前期:6 後期:6
教科書/教材			
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア)業務の内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。(b)
(イ)配属先の指導者の指示に従って、安全・正確に業務を行うことができる。(d)
(ウ)作業内容と成果を要領よく文章にまとめることができる。(f)
(エ)作業を通じて気が付いた点、自己の反省すべき点を指摘することができる。(d)
(オ)作業内容、自己の習得した事柄を、視聴覚教材等を用いて口頭で発表することができる。(f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	業務の内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。(b)		
評価項目(イ)	配属先の指導者の指示に従って、安全・正確に業務を行うことができる。(d)		
評価項目(ウ)	作業内容と成果を要領よく文章にまとめることができる。(f)		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A5 電気・電子システム工学の基礎知識・技術が，ものづくりの現場や実験実習の中でどのように生かされているかを認識し，理論学習の出発点としている.
学習・教育到達度目標 E5 社会における技術者の役割および技術と人類の豊かさとの関係を理解している.
JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ③ 問題解決能力
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	企業や役所などでの職場体験や各種団体が主催するプロジェクトなどへの参加を通して、学校で学ぶ工学的知識や専門技術が社会にどのように生かされているかを学び、その成果を取りまとめて発表する能力を身に付ける。また、実習先での職場体験や業務を通して最先端技術及びそれに伴う知的財産、技術者倫理など、技術者の位置付けと役割を体験する。
授業の進め方・方法	
注意点	

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	実習先での実習内容の理解：技術的事項と組織全体の中の役割との理解	
		2週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		3週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		4週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		5週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		6週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		7週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		8週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
	2ndQ	9週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		10週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		11週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		12週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		13週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		14週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		15週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	

		16週		
後期	3rdQ	1週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		2週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		3週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		4週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		5週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		6週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		7週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		8週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
	4thQ	9週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		10週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		11週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		12週	実習作業：情報収集、実験装置の操作習得、実験、結果解析、問題点抽出、作業の記録	
		13週	実習報告書の作成：作業内容、作業状況、実習から習得した結果、反省点等の文書化	
		14週	実習報告書の作成：作業内容、作業状況、実習から習得した結果、反省点等の文書化	
		15週	実習報告会用のプレゼンテーション：上記(1)～(3)をまとめ、資料（パワーポイント、ポスター等）の作成、発表	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	実習報告書	指導者の評価	発表	合計
総合評価割合	30	40	30	100
分野横断的能力	30	40	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	機能性材料学

科目基礎情報

科目番号	93014	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない／プリント配布，ビデオ学習を併せて行う		
担当教員	清水 利弘		

到達目標

(ア)純金属，合金および金属間化合物の違いについて理解する。
(イ)アモルファス合金，形状記憶合金等の仕組みを理解する。
(ウ)アモルファス合金，形状記憶合金等の性質を理解する。
(エ)複合材料について強化材の体積含有率を計算できる。
(オ)複合材料について混合則を理解し，具体的な問題に適用することができる。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	純金属，合金および金属間化合物の違いについて理解する。	純金属，合金および金属間化合物の違いについて知っている。	純金属，合金および金属間化合物の違いについて理解できない。
評価項目(イ)	アモルファス合金，形状記憶合金等の仕組みを理解する。	アモルファス合金，形状記憶合金等の仕組みを知っている。	アモルファス合金，形状記憶合金等の仕組みを知らない。
評価項目(ウ)	アモルファス合金，形状記憶合金等の性質を理解する。	アモルファス合金，形状記憶合金等の性質を知っている。	アモルファス合金，形状記憶合金等の性質を知らない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	金属材料や高分子系複合材料における近年の展開や動向に注目し，機能性材料や構造材料として使用される先進材料の作成法および，目指す機能を発現するための材料の構造や性質について学ぶ。取り上げる材料としては，先進材料として金属間化合物，形状記憶合金，アモルファス合金等を，また異なる性質を有する素材を組み合わせた材料として高分子系複合材料とする。講義を通じて先進材料の性質および，材料設計に関する知見を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	
注意点	事前に修得しておくことが望ましい科目「材料学」。（自学自習内容）授業後に必ず復習し，この確認のため復習内容を定められた期日に提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	金属の構造と性質	機能性材料の基礎として金属の構造と性質を理解する
		2週	金属の構造と性質	機能性材料の基礎として金属の構造と性質を理解する
		3週	合金の構造と性質	機能性材料の基礎として金属の構造と性質を理解する
		4週	合金の構造と性質	機能性材料の基礎として金属の構造と性質を理解する
		5週	アモルファス合金の仕組みと性質	アモルファス合金の仕組みと性質を理解する
		6週	形状記憶合金の仕組みと性質	形状記憶合金の仕組みと性質を理解する
		7週	超弾性合金の仕組みと性質	超弾性合金の仕組みと性質を理解する.
		8週	金属間化合物の仕組みと性質	金属間化合物の仕組みと性質を理解する
	4thQ	9週	超高性能金属の仕組みと性質	超高性能金属の仕組みと性質を理解する
		10週	複合材料の基礎：複合材料の歴史および定義（広義から狭義へ）	複合材料の歴史および定義について知る
		11週	複合することによる効果(1)：体積含有率	体積含有率の求め方を理解する
		12週	複合することによる効果(2)：混合則（繊維方向），異方性	混合則（繊維方向），異方性について理解する.
		13週	複合することによる効果(3)：混合則（繊維と垂直な方向）	混合則（繊維と垂直な方向）について理解する
		14週	無機系複合材料の性質と応用	無機系複合材料の性質と応用について知る
		15週	有機系複合材料の性質と応用	有機系複合材料の性質と応用について知る
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
専門的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	計測制御工学

科目基礎情報

科目番号	93015	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	図解メカトロニクス入門シリーズ「ディジタル制御入門」，雨宮好文 監修／高木章二 著，オーム社，ISBN4-274-08670-4／教材プリント		
担当教員	伊藤 和晃		

到達目標

(ア)ディジタル制御系の構成について説明できる。 (d)
(イ)連続時間系において制御システムの状態空間表現を導出できる。 (d)
(ウ)連続時間系の離散化ができる。また，離散時間系の自由応答が導出できる。 (d)
(エ)伝達関数表現と状態空間表現との関係について説明できる。(d)
(オ)状態フィードバックによってシステムの極を任意の値に配置できる。 (d)
(カ)制御系の定常特性や過渡特性が理解できる。 (d)
(キ)直流サーボモータを用いた位置制御系の設計ができる。 (d)
(ク)むだ時間の周波数特性やパデ近似について説明できる。 (d)
(ケ)振動系のモデル化ができる。また，振動抑制制御のために外乱オブザーバや2自由度制御系を設計できる。 (d)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
	ディジタル制御系の構成からむだ時間の要因が説明でき，周波数特性からむだ時間を見積もることができる。	ディジタル制御系の構成が説明でき，むだ時間の周波数特性やパデ近似について説明できる。	ディジタル制御系の構成が説明できず，むだ時間の周波数特性やパデ近似について説明できない。
	高次システムにおける状態空間表現が理解でき，連続時間系に対する厳密な離散化ができる。	連続時間系におけるシステムの状態空間表現が理解でき，状態空間表現と伝達関数表現の関係が理解できる。また，連続時間系の離散化ができる。	連続時間系におけるシステムの状態空間表現が理解できず，状態空間表現と伝達関数表現の関係が理解できない。また，連続時間系の離散化ができない。
	高次システムに対して状態フィードバック制御や位置制御，外乱オブザーバを設計できる。	制御系の定常特性や過渡特性が理解でき，状態フィードバック制御や位置制御，外乱オブザーバについて理解できる。	制御系の定常特性や過渡特性が理解できず，状態フィードバック制御や位置制御，外乱オブザーバについて理解できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A2　制御対象の特性を表現した数式や図を用いて，安定性を考慮した制御システムを設計できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	自動車産業や電子機器産業では様々な生産・加工設備が用いられている。これら生産・加工設備に対する性能向上の要求に対応すべく，機械設備に電子制御技術を応用したメカトロニクスが発達してきた。そこではコンピュータによるディジタル制御を前提とした各種制御理論が効果的に応用されている。本科目では，古典制御理論や現代制御理論を学んできた学生を対象に，ディジタル制御の基礎となる離散時間系における制御システムの振る舞いや安定性について教授し，その応用例としてメカトロニクスの運動制御を取り上げ，電動モータの速度制御や位置制御，振動系に対する振動抑制制御について学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	授業後に必ず復習し，学習内容の理解を深めること。本科のシステム制御工学に準ずる科目を修得していることを前提とする。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ディジタル制御とは何か：マイコンによる制御，A/D変換器とD/A変換器	ディジタル制御の概要が理解できる。
		2週	制御システムの表し方：タンクから流れる液体の制御，タンクシステムの離散時間系での表現	制御システムの表し方が理解できる。
		3週	1次システムの出力：連続時間系の出力（自由応答，階段状入力に対する出力），連続時間系の離散化	1次システムの出力（連続時間系，離散時間系）が理解できる。
		4週	2次システム：2次システムの例，アナログ2次システム，離散化されたシステムの応答	2次システムの出力（連続時間系，離散時間系）が理解できる。
		5週	2次システムの厳密な離散化：状態空間表現，伝達関数表現と状態空間表現の関係，状態空間表現の離散化	2次システムの伝達関数表現と状態空間表現の関係が理解できる。
		6週	2次システムの厳密な離散化：状態空間表現，伝達関数表現と状態空間表現の関係，状態空間表現の離散化	2次システムの厳密な離散化が理解できる。
		7週	制御システムの安定問題：ロケットの姿勢の制御，安定判別，可制御と可観測	制御システムの安定判別が理解できる。
		8週	制御システムの安定問題：ロケットの姿勢の制御，安定判別，可制御と可観測	制御システムの可制御性と可観測性が理解できる。
	2ndQ	9週	制御の良さ：定常特性，過渡特性，離散時間系における望ましい極の範囲	制御の良さ：定常特性，過渡特性が理解できる。
		10週	制御の良さ：定常特性，過渡特性，離散時間系における望ましい極の範囲	制御の良さ：離散時間系における望ましい極の範囲が理解できる。
		11週	直流サーボモータを用いた位置制御系の設計：開ループパルス伝達関数，極指定による設計，モデル追従制御	直流サーボモータを用いた位置制御系の設計：開ループパルス伝達関数が理解できる。

		12週	直流サーボモータを用いた位置制御系の設計：開ループパルス伝達関数，極指定による設計，モデル追従制御	直流サーボモータを用いた位置制御系の設計：極指定による設計やモデル追従制御が理解できる。
		13週	むだ時間：むだ時間の周波数特性とパデ近似	むだ時間の周波数特性とパデ近似が理解できる。
		14週	振動系に対する振動抑制制御系の設計：制御システムのモデル化，外乱オブザーバ，2自由度制御系	振動系に対する制御システムのモデル化が理解できる。
		15週	振動系に対する振動抑制制御系の設計：制御システムのモデル化，外乱オブザーバ，2自由度制御系	振動系に対する外乱オブザーバや2自由度制御系が理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
専門的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電磁気学

科目基礎情報

科目番号	93019	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「演習電気磁気学（新装版）」　大貫繁雄・安達三郎　著（森北出版）ISBN:978-4-627-71132-7／教材用プリント		
担当教員	塚本 武彦		

到達目標

(ア)電荷に働く力や電界の強さを微積分等によって導出できる。
(イ)分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界の強さおよび電位を説明できる。
(ウ)誘電体の性質を理解し，球・円筒・板状の各種コンデンサの静電容量を計算できる。
(エ)電荷分布に特別な対称性が存在する場合や複雑な接地面がある場合の電界・電位の導出方法を概説できる。
(オ)有限長の電流が作る磁界を積分等によって計算できる。
(カ)無限長の直線電流やソレノイドに流れる電流が作る磁界の導出方法を概説できる。
(キ)磁束の変化によって生じる誘導起電力の大きさや電磁力を説明できる。
(ク)いろいろな形状のコイルのインダクタンスを計算できる。
(ケ)マクスウェルの電磁方程式の意味と電磁波の性質を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界，電位を説明でき，また導体間の静電容量を計算できる。	分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界の強さおよび電位を説明できる。	分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界の強さおよび電位を説明できない。
評価項目(イ)	円・直線電流やソレノイドに流れる電流が作る磁界を導出でき，また誘導起電力や電磁力を説明できる。	有限長の電流，無限長の直線電流やソレノイドに流れる電流が作る磁界の導出方法を概説できる。	有限長の電流，無限長の直線電流やソレノイドに流れる電流が作る磁界の導出方法を概説できない。
評価項目(ウ)	マクスウェルの電磁方程式を説明でき，その式から平面電磁波の伝搬速度などを導出できる。	マクスウェルの電磁方程式の意味と電磁波の性質を説明できる。	マクスウェルの電磁方程式の意味と電磁波の性質を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B4　電気磁気学の基礎的内容である静電界，静磁界の事象を理解し，それらに関する必要な諸量を，理論に基づいて計算できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	電磁気学は，力学と並んで工学・物理学の基本的な学問分野である。本講義では最初に本学科の内容の復習を兼ねて，静電現象および磁気現象の具体例から入り，これらの定量化，数式化を行い，その物理的意味の把握を通して抽象的な概念の理解を目指す。まず，クーロンの法則からガウスの法則に至り，電界・電位・誘電体・静電容量等について教授する。次に，ビオ・サバールの法則からマクスウェルの電磁方程式に至り，磁束・磁性体・インダクタンス・電磁誘導・電磁波等について教授する。
授業の進め方・方法	
注意点	本学科科目の電磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの内容が修得されていることを前提として授業を進める。（自学自習内容）授業内容に該当する項目について，教科書「演習電気磁気学」で予め調べてくること。特に予習が必要な項目は授業内容に記載してある。また，授業内容に関連する課題を毎回提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	クーロンの法則：電荷を動かす仕事，電界の強さ（予習：クーロンカ）	電荷に働く力や電界の強さを微積分等によって導出できる。
		2週	ガウスの法則：球状電荷，円筒状電荷および面状電荷が作る電界の求め方（予習：電気力線と電界の関係）	分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界の強さおよび電位を説明できる。
		3週	電気二重層（予習：電気双極子が作る電位と電界）	分布状電荷や電気二重層･電気双極子が作る電界の強さおよび電位を説明できる。
		4週	静電容量：各種導体系のキャパシタンス，誘電体（予習：キャパシタンスの導出方法）	誘電体の性質を理解し，球・円筒・板状の各種コンデンサの静電容量を計算できる。
		5週	静電容量：各種導体系のキャパシタンス，誘電体（予習：キャパシタンスの導出方法）	誘電体の性質を理解し，球・円筒・板状の各種コンデンサの静電容量を計算できる。
		6週	ポアソンの方程式，影像法（鏡像法）（予習：接地面がある場合の電界の求め方）	電荷分布に特別な対称性が存在する場合や複雑な接地面がある場合の電界・電位の導出方法を概説できる。
		7週	ポアソンの方程式，影像法（鏡像法）（予習：接地面がある場合の電界の求め方）	電荷分布に特別な対称性が存在する場合や複雑な接地面がある場合の電界・電位の導出方法を概説できる。
		8週	電流の作る磁界(1)：ビオ・サバールの法則，電磁力（予習：有限長直線電流の作る磁界）	有限長の電流が作る磁界を積分等によって計算できる。
	4thQ	9週	電流の作る磁界(1)：ビオ・サバールの法則，電磁力（予習：有限長直線電流の作る磁界）	有限長の電流が作る磁界を積分等によって計算できる。
		10週	電流の作る磁界(2)：アンペールの法則（予習：無限長直線電流の作る磁界）	無限長の直線電流やソレノイドに流れる電流が作る磁界の導出方法を概説できる。
		11週	ファラデーの電磁誘導の法則：磁束の時間変化と誘導起電力の関係	磁束の変化によって生じる誘導起電力の大きさや電磁力を説明できる。
		12週	インダクタンス：環状・無限長ソレノイド，その他のコイル，内部インダクタンス	いろいろな形状のコイルのインダクタンスを計算できる。
		13週	インダクタンス：環状・無限長ソレノイド，その他のコイル，内部インダクタンス	いろいろな形状のコイルのインダクタンスを計算できる。

		14週	マクスウェルの電磁方程式・電磁波（予習：ベクトル演算）	マクスウェルの電磁方程式の意味と電磁波の性質を説明できる。
		15週	マクスウェルの電磁方程式・電磁波（予習：ベクトル演算）	マクスウェルの電磁方程式の意味と電磁波の性質を説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合				
	定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	50	20	30	100
専門的能力	50	20	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電子回路論

科目基礎情報

科目番号	93020	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	新インターユニバーシティ「電子回路」　岩田　聡　編著　（オーム社）／「ELECTRONIC CIRCUITS 」Donald L. Schilling著、のプリントを使用 、その他プリントを使用		
担当教員	及川 大		

到達目標

(ア)電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解し、説明できる。
(イ)トランジスタによる電圧増幅、電流増幅を説明できる。
(ウ)トランジスタ回路を図式解法と等価回路で説明し解析できる。
(エ)OPアンプの特徴を説明できる。
(オ)OPアンプの基礎回路の原理を説明できる。
(カ)OPアンプを用いた応用回路を設計できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解し、説明できる。	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解できる。	電子回路の基礎としてダイオードおよびトランジスタ増幅の原理を理解できない。
評価項目(イ)	トランジスタを用いた増幅回路を理解し解析できる。	トランジスタを用いた増幅回路を理解できる。	トランジスタを用いた増幅回路を理解できない。
評価項目(ウ)	OPアンプを用いた応用回路を理解できる。	OPアンプを用いた基礎回路を理解できる。	OPアンプを用いた基礎回路を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B3　電気・電子回路の基礎的内容である交流の定常現象について，物理的概念を理解し，電圧・電流値等を導出できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	エレクトロニクスの技術が工業分野においては重要視されている。家庭にまでコンピュータをはじめとする電子情報機器が普及し、我々の生活からこれらを切り離すことはできない時代となっている。電気電子技術者はエレクトロニクスの果たす役割を理解し、これら技術を学習、発展させる必要がある。電子回路は情報・通信はもとより機械・制御工学の分野を目指す人にとっても重要な基礎科目である。この講義では、Donald L. Schillin 著の「ELECTRONIC CIRCUIT」を副読本として、本学科で学習した回路を基礎として電子回路を学習する。特に、アナログ回路を中心に回路設計ができることを目標とする。
授業の進め方・方法	主に板書と配布プリントを用いて講義を進める.
注意点	(自学自習内容)授業後に必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また授業内容に関連する予習を行うこと.

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用	電子回路の概要を理解する.
		2週	電子回路の概要と応用の説明:電子回路の復習と電子機器への応用	電子回路の概要を理解する.
		3週	ダイオードの原理と整流特性：P型N型半導体、PN接合、整流回路	ダイオードの原理と整流特性を理解する.
		4週	ダイオードの原理と整流特性：P型N型半導体、PN接合、整流回路	ダイオードの原理と整流特性を理解する.
		5週	トランジスタの基礎原理：　PNP　NPN　　トランジスタにおける電流増幅	トランジスタの基礎原理を理解する.
		6週	トランジスタの基礎原理：　PNP　NPN　　トランジスタにおける電流増幅	トランジスタの基礎原理を理解する.
		7週	トランジスタ回路の図式解法:　増幅回路とトランジスタの等価回路	トランジスタ回路の図式解法ができる.
		8週	トランジスタ回路の図式解法:　増幅回路とトランジスタの等価回路	トランジスタ回路の図式解法ができる.
	2ndQ	9週	OPアンプと理想OPアンプ：　　イマジナリショート　差動利得∞	OPアンプと理想OPアンプについて理解する.
		10週	OPアンプの基礎回路：　反転、非反転増幅回路	OPアンプの基礎回路について理解する.
		11週	OPアンプの基礎回路：　反転、非反転増幅回路	OPアンプの基礎回路について理解する.
		12週	OPアンプ応用回路１：　係数回路、積分回路、加算回路、減算回路	OPアンプの応用回路について理解する.
		13週	OPアンプ応用回路１：　係数回路、積分回路、加算回路、減算回路	OPアンプの応用回路について理解する.
		14週	OPアンプ応用回路2：　半波整流回路、全波整流回路、折れ線近似回路	OPアンプの応用回路について理解する.
		15週	OPアンプ応用回路2：　半波整流回路、全波整流回路、折れ線近似回路	OPアンプの応用回路について理解する.
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	小テスト	合計
総合評価割合	60	40	100
専門的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電気英語コミュニケーションI

科目基礎情報

科目番号	93028	科目区分	専門 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材	「めざせ100万語！読書記録手帳」SSS英語学習法研究会 ISBN978-4902091267、Cambridge English Readers Level 3 (CER3)他、英文多読用図書		
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア)日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書することができる。(g)
(イ)基本語1300～1400語水準（YL3.6）の英文を、連続して75分以上読み続けることができる。(f)
(ウ)基本語1300～1400語水準（YL3.6）の英文を、毎分100語以上で読み、概要を把握することができる。(f)
(エ)課外学習も含めて、１年間で延べ25万語以上の易しい英文を読んでいる 。(g)
(オ)TOEIC470点相当以上の英語コミュニケーション能力を有する 。(f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書することができる。(g)		
評価項目(イ)	基本語1300～1400語水準（YL3.6）の英文を、連続して75分以上読み続けることができる。(f)		
評価項目(ウ)	基本語1300～1400語水準（YL3.6）の英文を、毎分100語以上で読み、概要を把握することができる。(f)		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 D5　自律的，継続的な学習により，TOEIC450点相当以上の英語運用能力を身につけている.
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	技術のグローバル化に伴い、英語によるコミュニケーション・スキルの習得は、電気・電子技術者にとり不可欠となっている。本講では、やさしい英文を日本語を介さないで大量に読み聴く多読・多聴をベースに、正確さよりも流暢性を優先した演習を行う。また、自律的、継続的な学習スタイルを確立することを目指す。
授業の進め方・方法	所定の課外学習を要する。
注意点	TOEIC440点程度の英語コミュニケーション能力を持つことを想定して授業を行う。課題評価は、読書記録（10%、H30年3月～31年2月の累積）、および、外部試験（30%、H30年度以降に受験したTOEIC IPCまたは公開受験結果）により行う。必修

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	英語コミュニケーション・スキルを身につけるための学習法の解説	
		2週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		3週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		4週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		5週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		6週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		7週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		8週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
	2ndQ	9週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		10週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		11週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		12週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
		13週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
		14週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
		15週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	

		16週		
後期	3rdQ	1週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		2週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		3週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		4週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		5週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		6週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		7週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		8週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
	4thQ	9週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		10週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		11週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		12週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		13週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		14週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		15週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	10	50	40	100
専門的能力	10	50	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用電子デバイス

科目基礎情報

科目番号	93030	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「Semiconductor Devices -Phys.&Tech.-, 2nd Ed.」 S.M.Sze著(John Wiley&Sons), ISBN978-0-471333722／自作プリント		
担当教員	杉浦 藤虎		

到達目標

(ア)光の基本的性質（波動性，粒子性）について理解し、説明できる。 (d)
(イ)固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる。 (d)
(ウ)光や固体材料に関する演習問題を理解し，数値計算できる。 (d)
(エ)半導体材料あるいはその応用デバイスの特性を理解し，定性的に説明できる。 (d)
(オ)半導体および電子デバイスに関する英文を読み取る，または聞き取ることができる。 (d)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明でき，関連する式を導出できる	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用などについて説明できる	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用などについて説明できない
評価項目(イ)	半導体材料あるいはその応用デバイスの特性を理解し，定性的に説明できる	半導体材料の特性を定性的に説明できる	半導体材料の特性を定性的に説明できない
評価項目(ウ)	光や固体材料に関する応用問題を解くことができる	光や固体材料に関する基礎的な問題を解くことができる	光や固体材料に関する基礎的な問題を解くことができない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A3 エレクトロニクスに関する知識，特にICを構成している電子素子の動作原理を理解し，それを応用した電子デバイスの利用技術や計測技術を身につけている.
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	現在，エレクトロニクスの分野で重要な位置を占めているとともに，将来さらなる飛躍が期待されている電子デバイス，特に光デバイスの基礎原理といくつかの基本的応用デバイスについて学ぶ。光と粒子との相互作用を考えたとき，エネルギと運動量の両保存則が満足されなければならないが，固体中の電子と可視光は同程度のエネルギと運動量をもつことから大きな相互作用が見込まれる。固体による光の吸収や発光はこの例であり，実際の応用・技術例について紹介する。
授業の進め方・方法	本講義では光学の基礎およびその応用と技術について理解することを目的とし，特に半導体素子を中心に話を進める。
注意点	電気・電子システム工学科開講科目「電子工学」，「応用電子工学」および「半導体工学」を修得していることが望ましい。（自学自習内容）授業内容に該当する項目について必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また与えられた自習課題は確実に解いておくこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	光エレクトロニクスとは：光学と電子工学の融合，波の基本形，波動方程式（課題：波動関数に関する演習）	光の基本的性質（波動性，粒子性）について理解し、説明できる
		2週	光の基本的性質：スネルの法則，波の干渉，コンプトン効果など（課題：光の粒子性に関する演習）	光の基本的性質（波動性，粒子性）について理解し、説明できる
		3週	光の基本的性質：スネルの法則，波の干渉，コンプトン効果など（課題：光の粒子性に関する演習）	光や固体材料に関する演習問題を理解し，数値計算できる
		4週	各種電子デバイス：Tr，光電子増倍管，ペルチェ素子，熱電対（課題：電子デバイスの関する演習）	半導体材料あるいはその応用デバイスの特性を理解し，定性的に説明できる
		5週	各種電子デバイス：Tr，光電子増倍管，ペルチェ素子，熱電対（課題：電子デバイスの関する演習）	半導体材料あるいはその応用デバイスの特性を理解し，定性的に説明できる
		6週	光デバイスの動作原理とその関連材料の特性（予習：教科書の日本語訳）	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる
		7週	光デバイスの動作原理とその関連材料の特性（予習：教科書の日本語訳）	光や固体材料に関する演習問題を理解し，数値計算できる
		8週	光デバイスの動作原理とその関連材料の特性（予習：教科書の日本語訳）	半導体および電子デバイスに関する英文を読み取る，または聞き取ることができる
	2ndQ	9週	光デバイスの動作原理とその関連材料の特性（予習：教科書の日本語訳）	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる
		10週	光デバイスの動作原理(1)：発光ダイオード（LED），レーザダイオード（LD）（課題：発光デバイスに関する演習）	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる
		11週	光デバイスの動作原理(1)：発光ダイオード（LED），レーザダイオード（LD）（課題：発光デバイスに関する演習）	光や固体材料に関する演習問題を理解し，数値計算できる
		12週	光デバイスの動作原理(1)：発光ダイオード（LED），レーザダイオード（LD）（課題：発光デバイスに関する演習）	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる
		13週	光デバイスの動作原理(2)：フォトダイオード（PD），太陽電池（課題：受光デバイスに関する演習）	固体中の電子と光（フォトン）との相互作用（光吸収，自然放出，誘導放出）などについて説明できる

		14週	光デバイスの動作原理(2)：フォトダイオード（PD），太陽電池（課題：受光デバイスに関する演習）	光や固体材料に関する演習問題を理解し，数値計算できる
		15週	総まとめ	電子デバイスに関する英文を読み取ることができ，また関連する問題が解ける
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	45	25	100
専門的能力	30	45	25	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	工学数理演習

科目基礎情報

科目番号	93031	科目区分	専門 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	後期	週時間数	後期:2
教科書/教材	特に指定しない／自作プリント		
担当教員	熊谷 勇喜		

到達目標

(ア)基礎的な微積分に関する問題が解ける。(d)
(イ)基礎的な微分方程式に関する問題が解ける。(d)
(ウ)基礎的な線形代数に関する問題が解ける。(d)
(エ)電気電子回路や電磁気学等に関する，大学院入試問題程度を解くことができる。(d，g)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	微積分，微分方程式に関する応用問題を解くことができる	微積分，微分方程式に関する基礎的な問題を解くことができる	微積分，微分方程式に関する基礎的な問題を解くことができない
評価項目(イ)	線形代数に関する応用問題を解くことができる	線形代数に関する基礎的な問題を解くことができる	線形代数に関する基礎的な問題を解くことができない
評価項目(ウ)	大学院入試問題程度の電気回路や電磁気学等に関する専門科目の問題を解くことができる	電気回路や電磁気学等に関する基礎的な問題を解くことができる	電気回路や電磁気学等に関する基礎的な問題を解くことができない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B3　電気・電子回路の基礎的内容である交流の定常現象について，物理的概念を理解し，電圧・電流値等を導出できる.
学習・教育到達度目標 B4　電気磁気学の基礎的内容である静電界，静磁界の事象を理解し，それらに関する必要な諸量を，理論に基づいて計算できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ②　基礎学力

教育方法等

概要	本科で学習してきた数理基礎科目、専門科目に関する演習のまとめを行う。この講義では、上記演習を通してエンジニアに求められる最低限の知識を再確認するとともに、専攻科2年次での大学院入試あるいは就職試験対策として活用できるよう過去の入試問題や入社試験問題などを取り上げる。
授業の進め方・方法	毎回，配布された演習問題を解いて提出する。各自のペースで進めて良い。
注意点	

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	数学(1)：基礎解析(三角関数，対数、指数関数の微積分)の演習	基礎的な微積分に関する問題が解ける
		2週	数学(1)：基礎解析(三角関数，対数、指数関数の微積分)の演習	基礎的な微積分に関する問題が解ける
		3週	数学(1)：基礎解析(三角関数，対数、指数関数の微積分)の演習	基礎的な微積分に関する問題が解ける
		4週	数学(1)：基礎解析(三角関数，対数、指数関数の微積分)の演習	応用的な微積分に関する問題が解ける
		5週	数学(1)：基礎解析(三角関数，対数、指数関数の微積分)の演習	応用的な微積分に関する問題が解ける
		6週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	基礎的な微分方程式に関する問題が解ける
		7週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	基礎的な微分方程式に関する問題が解ける
		8週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	基礎的な微分方程式に関する問題が解ける
	4thQ	9週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	基礎的な微分方程式に関する問題が解ける
		10週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	基礎的な微分方程式に関する問題が解ける
		11週	数学(2)：微分方程式(線形微分方程式，連立微分方程式)の演習	応用的な微分方程式に関する問題が解ける
		12週	数学(3)：線形代数(行列値、逆行列、ランク、固有値、固有ベクトル)の演習	基礎的な線形代数に関する問題が解ける
		13週	数学(3)：線形代数(行列値、逆行列、ランク、固有値、固有ベクトル)の演習	応用的な線形代数に関する問題が解ける
		14週	専門科目（電気電子回路、電磁気学、基礎制御、電子物理等大学院入試過去問）の選択演習	電気電子回路や電磁気学等に関する，大学院入試問題程度を解くことができる
		15週	総まとめ	配布された微積分，微分方程式，線形代数，専門科目の問題を解くことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	60	100
専門的能力	40	60	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電子機械工学特別実験

科目基礎情報

科目番号	93034	科目区分	専門 / 必修
授業形態	実験	単位の種別と単位数	学修単位: 6
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	前期:8 後期:8
教科書/教材	／講義の都度、適宜プリントを配付する		
担当教員	上木 諭,杉浦 藤虎		

到達目標

(ア)ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる。
(イ)専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する。
(ウ)構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる。
(エ)ものづくりの工程の試運転時に発生した問題に解決案を提案できる。
(オ)自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	課題に対して，専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現できる	課題に対して，専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い機能を実現できる	課題に対して，相互協力により信頼性の高い機能を実現できない
評価項目(イ)	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる	生産システムを制御するための基本的なプログラムの開発ができない
評価項目(ウ)	試運転時に発生した問題に解決案を提案し，本運転を通して最終的な総括，報告をすることができる	試運転・本運転を通して最終的な総括，報告をすることができる	試運転・本運転を通して最終的な総括，報告をすることができない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A5 電気・電子システム工学の基礎知識・技術が，ものづくりの現場や実験実習の中でどのように生かされているかを認識し，理論学習の出発点としている.
学習・教育到達度目標 A6 電気・電子回路の設計および実験実習を通してものづくりに必要な実践的知識とスキルを身に付けるとともに，安全意識を身につけている.
学習・教育到達度目標 C5 複数の解決案を比較検討する等により，解決策を選択できる.
学習・教育到達度目標 D1 実験・研究内容を整った章立てに従い，分りやすい日本語で記述できる.
学習・教育到達度目標 D2 研究内容を聴衆に合わせて分かりやすい日本語で発表できる.
学習・教育到達度目標 D3 他者の発表内容を理解し，的確に質問できる.
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
JABEE i チームで仕事をするための能力
本校教育目標 ② 基礎学力
本校教育目標 ③ 問題解決能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	ものづくり工程における生産システムの企画段階から構想・設計・製作・組立・調整・試運転に至るまでの各工程で必要な機械・電気・情報の幅広い専門知識と、専門外の領域への配慮とコミニュケーションを通じて、プロジェクトマネージャーとして必要な管理能力を学ぶ。
授業の進め方・方法	本実験は最初から最後まですべて学生が主体となって取り組み，ものづくり工程の経験を通して自主的、継続的に学習していくための能力を身につける。
注意点	ものづくり一気通観エンジニア養成のために準備したロボットを用いて，機械，電気，情報の3分野の学生と，企業技術者が共同して，一つのテーマに取り組む。必修

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	安全指導，ものづくり工程の企画・構想	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる
		2週	安全指導，ものづくり工程の企画・構想	ものづくりのテーマの目標にあわせて，専門知識を用いた技術提案ができる
		3週	ものづくり工程の治具・機構部の開発・設計（電子・機械・ソフトウェア設計を中心にして）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		4週	ものづくり工程の治具・機構部の開発・設計（電子・機械・ソフトウェア設計を中心にして）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		5週	ものづくり工程の治具・機構部の開発・設計（電子・機械・ソフトウェア設計を中心にして）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		6週	ものづくり工程の治具・機構部の開発・設計（電子・機械・ソフトウェア設計を中心にして）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		7週	デザインレビュー（設計内容を発表し指導を受ける）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		8週	デザインレビュー（設計内容を発表し指導を受ける）	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
	2ndQ	9週	デザインレビュー後の修正	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		10週	デザインレビュー後の修正	専門分野外の機能を理解し，相互協力により信頼性の高い安価な機能を実現する
		11週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる

		12週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		13週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		14週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		15週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		16週		
後期	3rdQ	1週	構成部品の製作、プログラムの作成	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		2週	プログラムロード・デバック	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		3週	プログラムロード・デバック	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		4週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		5週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		6週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		7週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		8週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
	4thQ	9週	治具・機構部組立と配線・配管	構成部品の設計・製作，生産システムを制御・管理するための基本的なプログラムの開発ができる
		10週	試運転と本運転	ものづくりの工程の試運転時に発生した問題に解決案を提案できる
		11週	試運転と本運転	ものづくりの工程の試運転時に発生した問題に解決案を提案できる
		12週	総合評価・成果発表会	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる
		13週	総合評価・成果発表会	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる
		14週	報告書の作成・技術指導	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる
		15週	報告書の作成・技術指導	自主的，継続的なグループ作業を行った結果，企画から完成までの過程を総括し報告することができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	課題	合計
総合評価割合	100	100
専門的能力	100	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	特別研究Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	93202	科目区分	専門 / 必修
授業形態	研究	単位の種別と単位数	学修単位: 4
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専1
開設期	通年	週時間数	前期:4 後期:4
教科書/教材			
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア)倫理観を踏まえた上で，研究の背景と目的を理解する。 (e)
(イ)研究に必要な情報を各種の媒体を利用して収集し，研究に必要な知識を習得する。 (e)
(ウ)基礎的な知識・技術を基に実験や調査などの研究方法を設計し、研究計画を立案できる。 (h)
(エ)実験や調査から，信頼性の高いデータを収集できる。 (e)
(オ)創造性を発揮して課題を探求し、問題点を自ら解決することができる。 (h)
(カ)視聴覚ツールなどを用いて他人にわかりやすいプレゼンテーション資料や研究概要を作成できる。 (f)
(キ)研究内容を口頭でわかりやすく説明することができ，また他の学生の研究内容を理解し討論できる。 (f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	倫理観を踏まえた上で，研究の背景と目的を理解する。 (e)		
評価項目(イ)	研究に必要な情報を各種の媒体を利用して収集し，研究に必要な知識を習得する。 (e)		
評価項目(ウ)	基礎的な知識・技術を基に実験や調査などの研究方法を設計し、研究計画を立案できる。 (h)		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 C1 研究の背景を自ら調査・整理し，よく理解している.
学習・教育到達度目標 C2 技術的な問題点や社会における課題を明確にした上で，研究目的を設定し，研究方法を設計できる.
学習・教育到達度目標 C3 専門的知識や技術レベルを考慮したうえで研究日程を立案・実行し，必要に応じて修正することにより，計画的，継続的に研究できる.
学習・教育到達度目標 C4 工学的手法によりデータを解析し，考察できる.
学習・教育到達度目標 C5 複数の解決案を比較検討する等により，解決策を選択できる.
学習・教育到達度目標 D1 実験・研究内容を整った章立てに従い，分りやすい日本語で記述できる.
学習・教育到達度目標 D2 研究内容を聴衆に合わせて分かりやすい日本語で発表できる.
学習・教育到達度目標 D3 他者の発表内容を理解し，的確に質問できる.
JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ③ 問題解決能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	工学分野における研究は，人類の持続的な発展のために行われるべきものである。電子機械工学専攻では，各学生が独自のテーマについて研究を行う。各教員の指導のもとに，特定の研究テーマについて広く深く専門の内容を掘り下げ，理解を深めるとともに，倫理観を持ち，創造的で計画的かつ継続的に研究を進める姿勢を身につける。
授業の進め方・方法	
注意点	単位時間の配分は平均的な目安であり、研究指導教員によって差異がある。必修

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	各教員の研究内容の理解、自分に適した研究テーマの選択	
		2週	各教員の研究内容の理解、自分に適した研究テーマの選択	
		3週	各教員の研究内容の理解、自分に適した研究テーマの選択	
		4週	研究の背景と目的の把握：研究指導教員とのディスカッション	
		5週	研究の背景と目的の把握：研究指導教員とのディスカッション	
		6週	研究の背景と目的の把握：研究指導教員とのディスカッション	
		7週	研究の背景と目的の把握：研究指導教員とのディスカッション	
		8週	研究に必要な情報の収集および知識の習得：専門書、論文誌、インターネット検索などの利用	
	2ndQ	9週	研究に必要な情報の収集および知識の習得：専門書、論文誌、インターネット検索などの利用	
		10週	研究に必要な情報の収集および知識の習得：専門書、論文誌、インターネット検索などの利用	
		11週	研究計画の立案：実験・調査・解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	
		12週	研究計画の立案：実験・調査・解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	

		13週	研究計画の立案：実験・調査・解析内容を考慮した研究フローチャートの作成	
		14週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		15週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		16週		
後期	3rdQ	1週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		2週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		3週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		4週	実験・調査・データ収集・プログラム作成	
		5週	研究結果の解析：実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		6週	研究結果の解析：実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		7週	研究結果の解析：実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		8週	研究結果の解析：実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
	4thQ	9週	研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）および研究概要の作成	
		10週	研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）および研究概要の作成	
		11週	研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）および研究概要の作成	
		12週	研究成果の発表：プレゼンテーション能力の向上、他の学生の研究内容の理解	
		13週	研究成果の発表：プレゼンテーション能力の向上、他の学生の研究内容の理解	
		14週	研究成果の発表：プレゼンテーション能力の向上、他の学生の研究内容の理解	
		15週	研究成果の発表：プレゼンテーション能力の向上、他の学生の研究内容の理解	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	研究概要	研究発表	合計
総合評価割合	40	60	100
専門的能力	40	60	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	総合英語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	90012	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「英検２級　テーマ別　文で覚える単熟語」（旺文社）／プリント教材		
担当教員	鈴木 基伸		

到達目標

(ア)語・句・文における基本的な強勢や文における基本的なイントネーション・区切りを正しく理解し、音読することができる。
(イ)授業でとりあげた文法事項を正しく理解することができる。
(ウ)毎分120語程度の速度で物語文や説明文を読み、その概要を把握できる。
(エ)社会的な諸問題に関して、基本的な語彙・文法・語法を用いて、自分の意見を述べることができる。
(オ)150語程度から成る英文を、徹底した音読を通して、「意味のまとまり」として取り込むことができる。
(カ)「聞き手」の存在を意識して、150語程度から成る英文を「語る」ように発表することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	語・句・文における基本的な強勢や文における基本的なイントネーション・区切りを正しく理解し、音読することができる。	強勢、イントネーション、区切りの図式化や音読練習といった予備的な活動を経て、語・句・文における基本的な強勢や文における基本的なイントネーション・区切りを正しく理解し、音読することができる。	語・句・文における基本的な強勢や文における基本的なイントネーション・区切りを正しく理解し、音読することができない。
評価項目(イ)	授業でとりあげた文法事項を正しく理解することができる。	英文に関連する文法問題演習といった予備的な活動を経て、授業でとりあげた文法事項を正しく理解することができる。	授業でとりあげた文法事項を正しく理解することができない。
評価項目(ウ)	毎分120語程度の速度で物語文や説明文を読み、その概要を把握できる。	毎分１００語～１１０語の速さの英文を、２回繰り返して聞くといった予備的な活動を経て、毎分120語程度の速度で物語文や説明文を読み、その概要を把握できる。	毎分120語程度の速度で物語文や説明文を読み、その概要を把握できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 E4　日本と国外の文化の差異を認識している.
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	この授業では、２年前期までに身につけた四技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）をさらに向上させながら、総合的な英語力を養う。授業における活動は、大きく２つに分かれる。一つは、Short Speech、もう一つは、Scriptの英文を「読み」から「語り」にする活動である。前者は、社会的な諸問題について、自分の意見を１，２分で話す練習であり、後者は、一つのテーマについて書かれた短文（150～200語程度）を何度も音読することを通して、英文を自分の中に取り込み、「自分の言葉」として「語り直す」練習である。
授業の進め方・方法	
注意点	英和辞典（紙または電子辞書）を持参すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション　英語チェックテスト	総合英語IIの授業内容を把握する。英語診断テストを通して、現時点の自身の英語力を把握する。
		2週	Short Speech ①　Script ①「ソーラー道路」	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		3週	Short Speech ②　Script ②「ロボットのマナー」(1)	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		4週	Short Speech ③　Script ②「ロボットのマナー」(2)	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		5週	Short Speech ④　Script ③「地滑りとその対策」	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		6週	Short Speech ⑤　Script ④「カルシウム源」	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		7週	Short Speech ⑥　Script ⑤「機体を軽くする方法」	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。

		8週	Short Speech ⑦　Script ⑥「スロー・リーディング」(1)	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
	4thQ	9週	Short Speech ⑧　Script ⑥「スロー・リーディング」(2)	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		10週	Short Speech ⑨　Script ⑦「ウエディング・スープ」	本文全体の概要を把握する。本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。本文を何度も音読することを通して、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる。
		11週	英語発表会準備	授業の演習の成果として、授業で扱わなかったテキストの英文を、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げる発表のために英文の選択、発表練習を行う。
		12週	英語発表会	授業の演習の成果として、授業で扱わなかったテキストの英文を、「読み」から「語り」のレベルまで引き上げて、各自、発表する。
		13週	復習①（Scripts①～③）	第２～４週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		14週	復習①（Scripts④・⑤）	第５・６週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		15週	復習②（Scripts⑥・⑦）	第７～９週の本文の総復習（リーディング・リスニング）を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	実技課題	合計
総合評価割合	70	30	100
分野横断的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	上級英語表現

科目基礎情報

科目番号	90014	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「WISH」佐久間みかよ編注（研究社）　ISBN978-4-327-42174-8		
担当教員	水口 陽子		

到達目標

(ア)文化・社会・科学に関する英文を読みQuestions and Answers形式の手法により内容把握ができる。
(イ)学習した英文を聞き、英語による質問に答えることができる。
(ウ)慣用句（イディオム）、句動詞、慣用連語を習得する。
(エ)文法事項を正しく理解することができる。
(オ)日本やアメリカが抱えている問題について英語でまとめることができる。（プレゼンテーション）

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目	文化・社会・科学に関する英文を読みQuestions and Answers形式の手法により内容把握ができる。	文化・社会・科学に関する英文を読み、内容を読み取ることができる。	文化・社会・科学に関する英文を読み、内容が理解できない。
評価項目	学習した英文を聞き、英語による質問に答えることができる。	学習した英文を聞き、内容が理解できる。	学習した英文を聞き、内容が理解できない。
評価項目	慣用句（イディオム）、句動詞、慣用連語を習得する。	慣用句（イディオム）、句動詞、慣用連語を理解できる。	慣用句（イディオム）、句動詞、慣用連語を習得していない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 E4　日本と国外の文化の差異を認識している.
 JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	文化・社会・科学などの分野に関する英語講読教材を利用して、読解力を高める。語彙を増やし、リスニングのスキルを高める。英語の4技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）のレベルアップをはかり、コミュニケーション能力を高める。読んだ内容に関して英語で考え、議論する能力を養う。
授業の進め方・方法	授業では、各自読んできた英文の理解度を確認し、ディスカッションやレポート作成によって内容やテーマについて理解を深める。
注意点	英和辞典（電子辞書も可）を持参すること。（自学自習内容）　毎週、授業内容に該当する英文を読み、Questionsに答え、難しい語彙については予め調べておく。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス、1: I am from a Family of Artists (1)	アメリカの作家によるエッセイを読み、内容把握ができる
		2週	1: I am from a Family of Artists (2) リスニング	アメリカの作家によるエッセイを読み、内容把握ができる
		3週	2: Backstroke (1)	日本の小説の英語訳を読み、内容把握ができる
		4週	2: Backstroke (2)　リスニング、ディスカッション	日本の小説の英語訳を読み、内容把握ができる
		5週	3: Lost Worlds (1)	海洋島の生き物に関する英文を読み、内容把握ができる
		6週	3: Lost Worlds (2) リスニング	海洋島の生き物に関する英文を読み、内容把握ができる
		7週	4: Why Japan Succeeded? (1)	日本の江戸時代の政策についての英文を読み、内容把握ができる
		8週	4: Whay Japan Succeeded? (2) リスニング、ディスカッション	日本の江戸時代の政策についての英文を読み、内容把握ができる
	2ndQ	9週	5: Virtual Violence (1)	日本の現代アートに関する英文を読み、内容把握ができる
		10週	5: Virtual Violence (2) リスニング	日本の現代アートに関する英文を読み、内容把握ができる
		11週	6: The Other America: Poverty in the United States (1)	アメリカの貧困に関する英文を読み、内容把握ができる
		12週	6: The Other America: Poverty in the United States (2) リスニング、ディスカッション	アメリカの貧困に関する英文を読み、内容把握ができる
		13週	8: Akeelah and the Bee (1)	映画のスクリプトを読み、内容把握ができる
		14週	8: Akeelah and the Bee (2) リスニング	映画のスクリプトを読み、内容把握ができる
		15週	まとめ、ディスカッション、プレゼンテーション	英文を読み、ディスカッションができる。読み取った内容について、まとめ、自分の考えを提示することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
分野横断的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	応用解析学Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	91015	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	／参考図書：「明解　複素解析」長崎憲一・山根英司・横山利章（培風館） ISBN:4-563-01122-3		
担当教員	金坂 尚礼		

到達目標

(ア)複素数に関する基本的な概念（絶対値、偏角等）やその基本性質を理解している。
(イ)複素関数としての初等関数の定義や性質を理解している。
(ウ)複素積分の定義を理解し、簡単な複素積分の計算ができる。
(エ)複素関数が正則関数か否かを判定できる。
(オ)コーシーの定理、コーシーの積分公式や留数定理を利用しつつ複素積分または実積分の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	複素数と複素数平面についての発展的な問題が解ける。	複素数と複素数平面についての基礎的な問題が解ける。	複素数と複素数平面についての基礎的な問題が解けない。
評価項目2	複素関数についての発展的な問題が解ける。	複素関数についての基礎的な問題が解ける。	複素関数についての基礎的な問題が解けない。
評価項目3	複素積分についての発展的な問題が解ける。	複素積分の基礎的な計算ができる。	複素積分の基礎的な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B1　自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	この授業では、「複素解析学」或いは「複素関数論」と呼ばれる複素１変数複素数値関数に関する理論の基礎の習得を目指す。多項式関数・分数関数、三角関数、指数・対数関数などこれまでに出会った多くの関数は複素関数に自然に拡張され、「正則関数」（あるいは「有理型関数」）と呼ばれる極めて良い性質を持つ関数となる。正則関数として三角関数と指数・対数関数が統一される様子や正則関数（「有理型関数」）の複素積分を理解することにより、この理論の面白さや美しさを感じることができるであろう。授業では同時にこの理論の応用面にも触れる予定である。
授業の進め方・方法	
注意点	（自学自習内容）授業後に必ず復習し学習内容の理解を深めること。また、授業内容に関連する課題を適宜提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	複素数と複素平面(座標平面における複素数の表示と極形式、複素数と回転)	複素数と複素平面(座標平面における複素数の表示と極形式、複素数と回転)について理解する。
		2週	複素数と複素平面(複素平面上の曲線とそのパラメータ表示)	複素数と複素平面(複素平面上の曲線とそのパラメータ表示)について理解する。
		3週	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)について理解する。
		4週	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)	複素関数(初等関数の複素関数への拡張)について理解する。
		5週	複素積分(複素積分の定義と性質)	複素積分(複素積分の定義と性質)について理解する。
		6週	複素積分(複素積分の定義と性質)	複素積分(複素積分の定義と性質)について理解する。
		7週	複素積分(多項式関数と簡単な分数関数の複素積分)	複素積分(多項式関数と簡単な分数関数の複素積分)について理解する。
		8週	小テストおよび演習	問題演習や小テストによって理解を確認する。
	4thQ	9週	複素積分(部分分数分解と分数関数の積分、特別な場合の留数定理)	複素積分(部分分数分解と分数関数の積分、特別な場合の留数定理）について理解する。
		10週	複素積分(複素積分を用いた実積分の計算例)	複素積分(複素積分を用いた実積分の計算例)について理解する。
		11週	正則関数(コーシー・リーマンの方程式、正則関数の定義および性質)	正則関数(コーシー・リーマンの方程式、正則関数の定義および性質)について理解する。
		12週	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式)	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式)について理解する。
		13週	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式)	コーシーの定理(コーシーの定理とコーシーの積分公式)について理解する。
		14週	小テストおよび演習	問題演習や小テストによって理解を確認する。
		15週	留数定理と応用例の紹介	留数定理について理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合	50	40	10	100
分野横断的能力	50	40	10	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	統計熱力学

科目基礎情報

科目番号	91016	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「キッテル　熱物理学」 山下　次郎，福地　充　共訳（丸善）		
担当教員	大森 有希子		

到達目標

(ア)孤立系について，多重度関数を求めることができる。
(イ)ボルツマンの原理を理解し，孤立系のエントロピーを求めることができる。
(ウ)熱浴と接した系において，特定の状態が実現する確率が，ボルツマン因子で与えられることを理解する。
(エ)熱浴と接した系について，分配関数，ヘルムホルツの自由エネルギーを求めることができる。
(オ)熱浴と接した系について，系のエネルギー，熱容量を求めることができる。
(カ)熱輻射に関するプランク分布を理解し，簡単な問題を解くことができる。
(キ)固体の比熱に関するデバイの理論を理解し，簡単な問題を解くことができる。
(ク)テーラー展開，ガウス積分，階乗に関するスターリングの近似など，適切な数学手法を用いて，目的の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明でき，問題を解くことができる。	孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明できる。	孤立系について多重度関数・ボルツマンの原理を説明できない。
評価項目(イ)	熱浴と接した系において，ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明でき，問題を解くことができる。	熱浴と接した系において，ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できる。	熱浴と接した系において，ボルツマン因子・分配関数・ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できない。
評価項目(ウ)	熱輻射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明でき，問題を解くことができる。	熱輻射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。	熱輻射に関するプランク分布・固体の比熱に関するデバイの理論を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	本講義では，統計熱力学を学ぶ。我々の身のまわりで観られる"巨視的"熱現象は，"微視的"な視点で考えると，膨大な数の粒子が様々な状態をとることで生じている。本講義では，微視的視点から，粒子の状態の平均像を考え，これを巨視的現象と繋げていく。特に，物性の熱力学的側面に焦点を当てて講義をする。
授業の進め方・方法	
注意点	前半で，熱力学的エントロピーと統計力学的エントロピーが一致することを学習するが，大学レベルの熱力学の授業を履修していない学生は，カルノーサイクルとエントロピーについて自習してほしい。また，複雑な計算が多いので，予習・復習を欠かさぬよう心掛けてほしい。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	多重度関数　：状態の数え方と多重度関数，平均値	状態の数を数えることができる。
		2週	多重度関数　：状態の数え方と多重度関数，平均値	スターリングの近似を使い，多重度関数を近似的に求めることができる。
		3週	多重度関数　：状態の数え方と多重度関数，平均値	平均値を求めることができる。
		4週	エントロピーと温度　：熱平衡，ボルツマンの原理，エントロピー増加の法則，熱力学の法則	熱平衡を説明できる。
		5週	エントロピーと温度　：熱平衡，ボルツマンの原理，エントロピー増加の法則，熱力学の法則	ボルツマンの原理を説明できる。
		6週	エントロピーと温度　：熱平衡，ボルツマンの原理，エントロピー増加の法則，熱力学の法則	エントロピー増加の法則を説明できる。
		7週	エントロピーと温度　：熱平衡，ボルツマンの原理，エントロピー増加の法則，熱力学の法則	熱力学の法則を説明できる。
		8週	ヘルムホルツの自由エネルギー　：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー	ボルツマン因子を説明できる。
	4thQ	9週	ヘルムホルツの自由エネルギー　：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー	分配関数を説明できる。
		10週	ヘルムホルツの自由エネルギー　：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー	可逆過程を説明できる。
		11週	ヘルムホルツの自由エネルギー　：ボルツマン因子，分配関数，可逆過程，自由エネルギー	ヘルムホルツの自由エネルギーを説明できる。
		12週	熱輻射　：プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）	黒体輻射・プランク分布関数を説明できる。

		13週	熱輻射 :プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）	黒体輻射・プランク分布関数を説明できる。
		14週	熱輻射 :プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）	固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。
		15週	熱輻射 :プランク分布関数，黒体輻射，固体のフォノン（デバイの理論）	固体の比熱に関するデバイの理論を説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	生体情報論

科目基礎情報

科目番号	91019	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「人体の構造と機能」 エレイン N. マリーブ 著 （医学書院）　「新・生理学実習書」 日本生理学会 編（南江堂）／プリント		
担当教員	加藤 貴英		

到達目標

(ア)身体の構造と形態、機能が理解できる。
(イ)ヒトの骨格と関節の構造が理解できる。
(ウ)神経系の構成と神経伝達のメカニズムが理解できる。
(エ)筋の形態と筋収縮のメカニズムが理解できる。
(オ)各内分泌線から放出されるホルモンの主な作用が理解できる。
(カ)心臓と血管の構造と血液循環のメカニズムが理解できる。
(キ)呼吸の機序と体内ガス交換のメカニズムが理解できる。
(ク)体脂肪率を算出することができる。
(ケ)エネルギー消費量を算出することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	身体の構造と形態、機能を説明することができる。	身体の構造と形態、機能が理解できる。	身体の構造と形態、機能が理解できない。
評価項目 2	数人でグループを作り、そのメンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集し、生理学的メカニズムが理解できる。	メンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集できる。	メンバーと協力して与えられた課題となる生理学的データを収集できない。
評価項目 3	収集したデータを基に生理学的・解剖学的観点から考察を加えレポート作成ができる。	収集したデータを基にレポート作成ができる。	収集したデータを基にレポート作成ができない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	生体のもつ様々な機能およびその調節機構を理解するために、本講義では、人体の構造と機能の根本となる解剖学と生理学を簡潔に学習する。また、種々の基礎的生理学実験法を学習する。これらの学習から人体の構造と機能を客観的に評価できる能力を育成する。
授業の進め方・方法	
注意点	授業で配布する教材プリントで復習すること.

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション ― 解剖学と生理学	身体の構造と形態、機能について理解できる。
		2週	骨格系 ― 骨と関節	ヒトの骨格と関節の構造について理解できる。
		3週	神経系 ― 神経のタイプと神経伝達のメカニズム	神経系の構造と神経伝達のメカニズムについて理解できる。
		4週	筋系 ― 筋のタイプと筋収縮のメカニズム	筋の形態と筋収縮のメカニズムについて理解できる。
		5週	筋力測定	筋力測定が実施できる。
		6週	エネルギー供給機構	エネルギー供給機構が理解できる。
		7週	運動時の代謝産物	運動時の血中乳酸濃度とエネルギー供給について理解できる。
		8週	内分泌系	各内分泌腺から放出されるホルモンの主な作用について理解できる。
	2ndQ	9週	心臓血管系	心臓と血管の構造と血液循環のメカニズムについて理解できる。
		10週	血圧と動脈音	水銀血圧計と聴診器を使って血圧の測定が実施できる。
		11週	呼吸系	呼吸の機序と体内ガス交換のメカニズムが理解できる。
		12週	酸素飽和度と呼吸の化学調節	低酸素、二酸化炭素が呼吸機能に与える影響について理解できる。
		13週	形態計測と身体組成	体脂肪率の算出方法が理解できる。
		14週	酸素摂取量とエネルギー消費	エネルギー消費量の算出方法が理解できる。
		15週	まとめ	レポート作成方法が理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100

分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	健康科学特論

科目基礎情報

科目番号	91020	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「健康運動実践指導者用テキスト」　（財団法人健康・体力づくり事業財団）／プリント		
担当教員	加藤 貴英		

到達目標

(ア)健康の概念と、健康の維持・増進について説明できる。
(イ)体力の概念と種々の体力測定法を説明できる。
(ウ)5大栄養素とエネルギーの摂取と消費の関係について説明できる。
(エ)自分に合ったフィットネスデザインができる。
(オ)フィットネスの実践ができる。
(カ)フィットネスの効果を客観的に判断できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解し、実施することができる。	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解することができる。	健康維持・増進のための運動トレーニングを理解することができない。
評価項目２	運動トレーニングの効果を統計処理したデータ（集団）から評価できる。	運動トレーニングの効果をデータ（個人）から評価できる。	運動トレーニングの効果をデータ（個人）から評価できない。
評価項目３	運動トレーニングデータに先行文献データを加えて研究レポートが作成できる。	運動トレーニングデータを基にレポートが作成できる。	運動トレーニングデータを基にレポートが作成できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B2　自然現象，特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる．
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	より良い人生を送るためにも常日頃から健康管理に努めなければならない。本講義では、健康を維持・増進するための基礎となる「運動」、「休養」、「栄養」、「体力」について学習する。また、フィットネスを実践していくための基礎的な方法論についても学習する。これらの学習から健康の維持・増進を実践できる能力を育成する。
授業の進め方・方法	
注意点	実際に運動トレーニングを行い，その効果を検証する．文部科学省の「体力・運動能力調査」や厚生労働省の「健康づくりのための身体活動基準・指針」は授業をおこなう上で非常に参考になるので，余裕があれば目を通しておく．

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	健康学概論	健康の概念と、健康の維持・増進について理解することができる。
		2週	体力の概念	体力の概念を理解することができる。
		3週	体力の測定	種々の体力測定を理解することができる。
		4週	体力の測定	種々の体力測定を実施することができる。
		5週	体力の測定	種々の体力測定データを評価することができる。
		6週	栄養と休養	栄養と休養について理解することができる。
		7週	フィットネス概論	運動トレーニングの方法論を理解することができる。
		8週	フィットネスデザイン	運動トレーニングの頻度、強度、時間の設定ができる。
	4thQ	9週	フィットネス演習	運動トレーニングが実施できる。
		10週	フィットネス演習	運動トレーニングが実施できる。
		11週	フィットネス演習	運動トレーニングが実施できる。
		12週	フィットネス演習	運動トレーニングが実施できる。
		13週	フィットネス演習	運動トレーニングが実施できる。
		14週	フィットネス効果	トレーニング効果を評価できる。
		15週	まとめ	統計解析とレポート作成方法を理解することができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	初等代数

科目基礎情報

科目番号	91021	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない		
担当教員	米澤 佳己		

到達目標

(ア)数学的な基本的記号の意味を理解できる。
(イ)数学的帰納法, 背理法を用いた簡単な証明ができる。
(ウ)最大公約数, 最小公倍数に関する簡単な計算ができる。
(エ)一次合同式・不定方程式の基本的な計算ができる。
(オ)オイラーの定理を理解し、その応用計算がおこなえる。
(カ)RSA 暗号の仕組みを理解し、簡単な例の計算が行える。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	数学的な基本的記号の意味を理解できる。		
評価項目(イ)	数学的帰納法, 背理法を用いた簡単な証明ができる。		
評価項目(ウ)	最大公約数, 最小公倍数に関する簡単な計算ができる。		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 B1　自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる.
JABEE c　数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	この講義では自然数及び整数の性質について考察する。整数には最大公約数、最小公倍数などの実数には無い概念を導入することにより様々な応用が与えられる。中でも現在では計算機によるネットワークの利用における暗号の取り扱いにおいて整数の性質が重要な論理的基礎をになっている。本講義においては、整数の性質を基本から解説し、その応用として現在の暗号の理論の初歩を述べる。
授業の進め方・方法	
注意点	授業内容に関連する課題を毎回出題するので、必ず提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	数学の基本的記号の使い方と基本的性質	
		2週	数学的帰納法の復習	
		3週	背理法による証明法	
		4週	整数に関する基本的定義と基本的性質	
		5週	ユークリッドの互除法とその応用	
		6週	最大公約数・最小公倍数に関する性質	
		7週	素因数分解の可能性と一意性	
		8週	一次合同式の定義と基本的性質	
	2ndQ	9週	合同方程式, 不定方程式	
		10週	剰余に関する定理	
		11週	オイラー関数の定義	
		12週	オイラーの定理, フェルマーの定理	
		13週	公開鍵暗号の仕組み	
		14週	公開鍵暗号の例としての RSA暗号	
		15週	電子署名の仕組みとRSA暗号におけるその実現法	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
分野横断的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	信頼性工学

科目基礎情報

科目番号	92012	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「信頼性データの解析」　真壁　肇　著　（岩波書店）／プリント等		
担当教員	中村 裕紀		

到達目標

(ア)確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。
(イ)修理系と非修理アイテムの違いを理解する。
(ウ)アイテムの信頼度や保全性について理解する。
(エ)工業製品において冗長性、フェールセーフおよびフールプルーフが考慮されていることがわかる。
(オ)直・並列系の信頼度を求めることができる。
(カ)故障発生にはパターンがあることを理解する。
(キ)信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。
(ク)寿命分布と故障率の関係について理解する。
(ケ)指数分布とワイブル分布について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	確率・統計に関する知識と信頼性や品質保証との関連性を十分に理解し考えることができる。	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができない。
評価項目(イ)	複雑な直・並列系の信頼度を求めることができる。	単純な直・並列系の信頼度を求めることができる。	単純な直・並列系の信頼度を求めることができない。
評価項目(ウ)	複雑な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できる。	単純な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できる。	単純な信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A5　電気・電子システム工学の基礎知識・技術が，ものづくりの現場や実験実習の中でどのように生かされているかを認識し，理論学習の出発点としている．
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	信頼性工学の初歩的な分野について、とくに信頼性データの取り扱い方や解析方法を統計学の手法を用いて学び、それに基づいて信頼性、耐久性および保安性の意味を理解する。同時に、信頼性モデルの構築の必要性と故障や修理に対する考え方を身につける。また、人間の生命表および死亡率は工業製品の寿命分布および故障率と多くの共通点をもち、それらの理解は信頼性を考慮する上で欠かすことができない。代表的な寿命分布である指数分布とワイブル分布についても解説する。
授業の進め方・方法	
注意点	「確率・統計」に関する基本を理解できていることが望ましい。授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	信頼性と品質管理、品質保証：SQC、TQC、設計審査、信頼性試験	確率・統計に関する知識を信頼性や品質保証と関連づけて考えることができる。
		2週	信頼性管理および信頼性工学の歴史：安全性、耐久性、保全性	修理系と非修理アイテムの違いを理解する。
		3週	信頼性の意味：MTTF、信頼度、ビーテンライフ、MTBF	修理系と非修理アイテムの違いを理解する。
		4週	保全性と設計信頼性：冗長性、フェールセーフ、フールプルーフ	アイテムの信頼度や保全性について理解する。工業製品において冗長性、フェールセーフおよびフールプルーフが考慮されていることがわかる。
		5週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：直・並列系の信頼度の計算）	直・並列系の信頼度を求めることができる。
		6週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：直・並列系の信頼度の計算）	直・並列系の信頼度を求めることができる。
		7週	信頼性モデル：保全度、直並列系、S-Sモデル（課題：直・並列系の信頼度の計算）	直・並列系の信頼度を求めることができる。
		8週	信頼性データ：完全標本、打切標本、ランダム打切標本	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。
	2ndQ	9週	信頼性データ：完全標本、打切標本、ランダム打切標本	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。
		10週	加速試験と信頼性データ：故障モード、加速係数	信頼性モデルと信頼性データの取り扱いについて理解する。
		11週	生命表と死亡率および寿命分布と故障率：経験表、死亡率曲線、平均故障間隔、平均故障寿命	寿命分布と故障率の関係について理解する。
		12週	寿命分布の確率密度関数と故障率関数および信頼度関数：故障率、任務時間、信頼度、不信頼度	寿命分布と故障率の関係について理解する。
		13週	寿命分布の確率密度関数と故障率関数および信頼度関数：故障率、任務時間、信頼度、不信頼度	寿命分布と故障率の関係について理解する。
		14週	故障発生のパターンとBath-tub曲線：初期故障、偶発故障、摩耗故障	故障発生にはパターンがあることを理解する。

		15週	指数分布とワイブル分布：最弱リンク説、極値統計 （課題：指数分布とワイブル分布）	指数分布とワイブル分布について理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
分野横断的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	情報システム工学

科目基礎情報

科目番号	92014	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「情報工学レクチャーシリーズ　ソフトウェア工学」高橋直久・丸山勝久共著（森北出版社），ISBN978-4627810617／「ユースケース駆動開発実践ガイド」ダグ・ローゼンバーグ他（翔泳社）、「かんたんUML」オージス総研(翔泳社)、「Java言語で学ぶデザインパターン」結城浩(ソフトバンク)		
担当教員	吉岡 貴芳		

到達目標

(ア)大規模ソフトウェア開発の課題について説明できる。
(イ)開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できる。
(ウ)要求分析の目的と手法について説明できる。
(エ)構造化分析、オブジェクト指向分析における手法を用いて、ソフトウェアのモデル図が描ける。
(オ)モジュール設計の目的を理解し、構造化手法やオブジェクト設計による効率的なソフトウェア設計仕様が描ける。
(カ)オブジェクト指向の特徴を理解し、クラス図やシーケンス図などの技法を使って、ソフトウェア設計仕様が描ける。
(キ)プロジェクト管理やテストおよび検証で用いられる手法を理解し、説明できる。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(可)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	大規模ソフトウェア開発の課題について正確に説明できる。	大規模ソフトウェア開発の課題について説明できる。	大規模ソフトウェア開発の課題について説明できない。
評価項目(イ)	開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について正確に説明できる。	開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できる。	開発を管理するための様々なプロセスモデルの特徴について説明できない。
評価項目(ウ)	要求分析の目的と手法について正確に説明できる。	要求分析の目的と手法について説明できる。	要求分析の目的と手法について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A4　コンピュータを利用した情報の保持・変換・伝達のための概念を理解し，説明できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	現在，情報システムは社会生活にとって欠かせないものであり，人間による活動の写像であるといえる。このため社会生活の変更に対する情報システムの仕様変更が適切でなければ，円滑な社会生活を妨げるばかりかシステムを提供する企業に不利益を及ぼしかねない。そこで，将来技術者として情報システムを構築する際に，仕様変更が容易で高い品質を維持でき，かつ効率的なシステムの構築手法を学ぶことが重要である。本講義では，開発初期段階でシステムの要求仕様を誤りなく把握し，変更に対して頑健な情報システムの分析・設計手法を，UMLを用いたユースケース駆動のオブジェクト指向開発方式により学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	C言語などのモジュール構造を有したプログラム開発について学んだことがあることを前提に進める。_x000D_（自学自習内容）授業内容に該当する項目について必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また与えられた自習課題は確実に解いておくこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	大規模ソフトウェア開発の課題と問題解決への取り組み、ソフトウェア開発プロセスとモジュール化	大規模ソフトウェア開発の課題と問題解決への取り組みと、ソフトウェア開発プロセスに応じたモジュール化の必要性を理解できる。
		2週	オブジェクト指向によるモジュール化：カプセル化とメッセージパッシング	オブジェクト指向によるモジュール化、カプセル化、およびメッセージパッシングを理解できる。
		3週	クラスとインスタンス、関連と継承	クラスとインスタンス、および関連と継承を理解できる。
		4週	ユースケース駆動オブジェクト指向ソフトウェア分析：　ユースケース図とユースケース記述	ユースケース駆動オブジェクト指向ソフトウェア分析における，ユースケース図とユースケース記述を理解できる。
		5週	ユースケースとロバストネス分析図	ロバストネス分析の必要性を説明でき、ユースケースからロバストネス分析図を導くことができる。
		6週	シーケンス図による動的分析、メッセージから操作の発見	シーケンス図による動的分析において、メッセージからクラスの操作を発見することができる。
		7週	クラス図における関連と継承、オブジェクト図　演習	クラス図における関連と継承を理解し、オブジェクト図を書くことができる。
		8週	ユースケース図から分析レベルのクラス図作成	ユースケース図から、ロバストネス分析、およびシーケンス図などを通し、さらに関連や継承を用いた分析レベルのクラス図を作成することができる。
	2ndQ	9週	オブジェクト指向設計：　抽象クラスとインタフェースクラス	オブジェクト指向設計において、抽象クラスとインタフェースクラスを理解できる。
		10週	デザインパターン１：Stateパターン	デザインパターンの必要性を理解し、Stateパターンを用いた設計レベルのクラス図を理解できる。
		11週	デザインパターン２：Observer パターン	デザインパターンの必要性を理解し、Observerパターンを用いた設計レベルのクラス図を理解できる。
		12週	大規模ソフトウェア開発の問題点：　様々なソフトウェア開発プロセス、構造化分析設計によるDFDとモジュール化	大規模ソフトウェア開発の問題点について理解し、様々なソフトウェア開発プロセスを理解できる。また、構造化分析設計によるDFDとモジュール化を理解できる。

		13週	モジュール構造の評価：強度と結合度	モジュール構造の評価のために用いられる強度と結合度を理解できる。
		14週	プロジェクト管理・テストと検証	プロジェクト管理，ソフトウェアテスト、および検証に用いられる技法について理解できる。
		15週	総まとめ	ユースケース駆動オブジェクト指向ソフトウェア分析・設計技法を用い、設計レベルのモジュール構成を作成できる。また、構造化分析設計によるDFDを用いたモジュール構成を作成できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
分野横断的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	パターン情報処理

科目基礎情報

科目番号	92015	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	荒木雅弘「フリーソフトでつくる音声認識システム」 森北出版、ISBN: 978-4-627-84712-5		
担当教員	村田 匡輝		

到達目標

(ア)パターン・クラスについて理解する。
(イ)パターン情報処理の数学的な基礎を理解する。
(ウ)特徴抽出の概要について理解する。
(エ)統計的パターン認識について理解する。
(オ)音響モデル、言語モデルの構築方法を説明することができる。
(カ)パターン情報処理の具体例として音声認識システムについて概要を理解する。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
	パターン・クラスについて理解し、実問題に応用できる。	パターン・クラスについて理解する。	パターン・クラスについて理解できない。
	パターン情報処理の数学的な基礎を理解し、詳細を説明できる。	パターン情報処理の数学的な基礎を理解する。	パターン情報処理の数学的な基礎を理解できない。
	特徴抽出の概要について理解し、実問題において効果的な特徴を説明できる。	特徴抽出の概要について理解する。	特徴抽出の概要について理解できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A5 電気・電子システム工学の基礎知識・技術が，ものづくりの現場や実験実習の中でどのように生かされているかを認識し，理論学習の出発点としている．
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ② 基礎学力

教育方法等

概要	人間は、実世界の画像・音・文字など様々な情報（パターン）を知覚し、それらのパターンをいくつかの概念（クラス）に対応付けることによって情報を処理している。コンピュータに人間と同等の処理を行わせるためには、様々な基礎技術を組み合わせる必要がある。本講義では、まず前半部分で、パターン情報処理を行うための様々な基礎理論・技術を学ぶ。そして、後半部分では、パターン情報処理の具体例として音声認識技術を取り上げ、実際にシステムを作り上げる過程を通して、パターン情報処理を実践する力を身に付ける。
授業の進め方・方法	
注意点	適宜ノートパソコンを持参すること。継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。また、授業内容について、決められた期日までの課題（レポート）提出を求める。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	シラバスを用いた授業内容の説明、パターン情報処理とは、データの前処理	データの前処理の重要性を理解する。
		2週	パターンからの特徴抽出	特徴抽出の概要を理解する。
		3週	最近傍決定則による識別	最近傍決定則を理解する。
		4週	誤差最小化に基づく識別	誤差最小化に基づく識別法を理解する。
		5週	サポートベクトルマシンによる識別	サポートベクトルマシンを理解する。
		6週	ニューラルネットワークによる識別	ニューラルネットワークを理解する。
		7週	未知データの推定	未知データの推定法を理解する。
		8週	パターン認識システムの評価	パターン認識システムの評価法を理解する。
	4thQ	9週	連続音声認識の概要	連続音声認識の概要を説明できる。
		10週	音響モデルの構築	音響モデルの構築方法を理解する。
		11週	HMMによる単語認識	HMMの基本を理解する。
		12週	音声認識のための文法規則	音声認識のための文法規則の記述方法を理解する。
		13週	統計的言語モデルの構築	統計的言語モデルの構築方法を理解する。
		14週	連続音声認識の実現	連続音声認識システムの動作を理解する。
		15週	対話システムの開発に向けて	対話システムの開発における重要事項を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
分野横断的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	工業デザイン論

科目基礎情報

科目番号	92016	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「増補新装(カラー版)世界デザイン史」阿部公正監修（美術出版社）ISBN978-4-568-40084-7		
担当教員	三島 雅博		

到達目標

(ア)近代工業デザイン発展の過程を理解し，おおよその流れを説明できる。
(イ)各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できる。
(ウ)製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できる。
(エ)各デザイン運動の課題と造形を理解する。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	近代工業デザイン発展の過程を理解し，その流れを説明できる。	近代工業デザイン発展の過程をおおよそ理解し，おおよその流れを説明できる。	近代工業デザイン発展の過程を理解していない。
評価項目(イ)	各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できる。	各デザイン運動の目的と社会的背景との関連をおおよそ説明できる。	各デザイン運動の目的と社会的背景との関連を説明できない。
評価項目(ウ)	製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できる。	製品のデザインと工業力・技術の発展との関係をおおよそ説明できる。	製品のデザインと工業力・技術の発展との関係を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E2　技術と社会の関わりを歴史から学んでいる.
JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	19世紀中頃より現代に至るまでの工業デザインの展開とその哲学及び目標についての講義を行う。産業革命とともに大量生産が始まり，それにより生じた製品のデザインの質の悪化が「デザイン」という意識を生じさせ，デザイン運動を発生させた。「デザイン」のその後の展開は，単に形を決めるだけの技術ではなく，様々な理論に裏打ちされ，哲学を伴った「芸術」として発展してきた。本講義では，そのような各段階で，デザイナーが検討し，到達しようとしてきたものが何であったのかを検討し，デザインの意義を理解することに努める。
授業の進め方・方法	
注意点	授業は，受講者に割り当てられた発表を基に進められる。また受講者は教員の薦める文献などで予め調べてくること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	近代デザインの前提。産業革命と技術の革新，新しい材料としての鉄，万国博の誕生	「授業内容」を理解し説明できる。
		2週	近代デザインの始まり。アーツ＆クラフト運動，ウィリアム・モリス，小芸術	「授業内容」を理解し説明できる。
		3週	伝統からの自由。新しいデザインとしてのアール・ヌーヴォーとユーゲント・シュティル	「授業内容」を理解し説明できる。
		4週	機能主義デザインの誕生。ウィーン分離派とウィーン工房，装飾と罪悪(アドルフ・ロース)	「授業内容」を理解し説明できる。
		5週	機械の美。イタリア未来主義，ロシア構成主義，ル・コルビュジエ	「授業内容」を理解し説明できる。
		6週	機械の美。イタリア未来主義，ロシア構成主義，ル・コルビュジエ	「授業内容」を理解し説明できる。
		7週	機械の美。イタリア未来主義，ロシア構成主義，ル・コルビュジエ	「授業内容」を理解し説明できる。
		8週	工業的美。オランダのデ・スティル，ピート・モンドリアンの美学	「授業内容」を理解し説明できる。
	4thQ	9週	工業デザインの誕生。優れた大量生産品への道，ペーター・ベーレンスとA.E.G.，ドイツ工作連盟，	「授業内容」を理解し説明できる。
		10週	近代デザイン教育。芸術と技術と教育(バウハウス)	「授業内容」を理解し説明できる。
		11週	戦前アメリカの工業デザイン。工業力，流線型，アール・デコ	「授業内容」を理解し説明できる。
		12週	戦前アメリカの工業デザイン。工業力，流線型，アール・デコ	「授業内容」を理解し説明できる。
		13週	戦後のデザイン。北欧，イタリア，ヨーロッパ，アメリカ，日本	「授業内容」を理解し説明できる。
		14週	戦後のデザイン。北欧，イタリア，ヨーロッパ，アメリカ，日本	「授業内容」を理解し説明できる。
		15週	戦後のデザイン。北欧，イタリア，ヨーロッパ，アメリカ，日本	「授業内容」を理解し説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	レポート	合計
総合評価割合	40	60	100
分野横断的能力	40	60	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	技術史

科目基礎情報

科目番号	92017	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	／プリント等		
担当教員	兼重 明宏,塚本 武彦,稲垣 宏,伊東 孝,大森 峰輝,今岡 克也		

到達目標

(ア)機械、機械制御、制御工学の発達と歴史の概要を説明できる。
(イ)世界および日本における電気史の概要を説明できる。
(ウ)電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ説明できる。
(エ)人類が自然と闘い土木構造物を造って来たこれまでの様子が理解できる。
(オ)現代の社会資本制度における土木構造物の築造事業の位置付けが理解できる。
(カ)住宅構造や地震防災の技術や発達の概要を説明できる。
(キ)建築計画関連技術の発達の概要を説明できる。
(ク)コンピュータ・インターネットの変遷の概略を、具体例をあげて説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	機械、機械制御、制御工学の発達と歴史を理解し，的確に説明できる。	機械、機械制御、制御工学の発達と歴史の概要が説明できる。	機械、機械制御、制御工学の発達と歴史の概要が説明できない。
評価項目(イ)	世界および日本における電気史の概要を説明できる。		
評価項目(ウ)	電気分野における技術の発展経緯から、科学技術の発展に必要な時代背景について自らの考えをまとめ説明できる。		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 E1　技術者の責任，倫理的問題と解決策の事例を知り，自ら考える素養を持つ.
学習・教育到達度目標 E2　技術と社会の関わりを歴史から学んでいる.
学習・教育到達度目標 E3　社会の仕組みと歴史を知り，他者・他国の立場から物事を考えることができる.
JABEE a　地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
JABEE b　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	今日の科学技術の進歩はめざましく、我々人間は発達した技術の恩恵を享受している。しかし、高度に発展を遂げた各種技術は一朝一夕でできあがったものではなく、いろいろな人の発明・発見あるいはたゆまぬ改良の努力によっている。そのため、今日の科学技術をよく理解するためには、先人達が創り出してきた過去から現在に至る技術について知ることが大切である。本科目では、機械、電気・電子、環境都市、建築、情報など各分野の技術が発達してきた経緯を概観し、地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につける。
授業の進め方・方法	
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。適宜、授業内容に関する課題（レポート）を課すので、決められた期日までに提出すること。さらに、興味をもった事柄については、Webや文献等で調べてみること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	シラバスを用いたガイダンス、 機械の発達と歴史	シラバスを用いたガイダンス、 機械の発達と歴史を理解する
		2週	機械制御の発達と歴史	機械制御の発達と歴史を理解する
		3週	制御工学の発達と歴史	制御工学の発達と歴史を理解する
		4週	電気の発見から電池の開発、電磁気学の発展、今日の電力産業まで	
		5週	電気の技術史1：電信・電話，ラジオ・テレビ放送網	
		6週	電気の技術史2：電気・電子材料，電気機器，家庭用電化製品	
		7週	明治から平成に至る社会資本整備からみた日本の土木史	明治から平成に至る社会資本整備からみた日本の土木史をりかいする
		8週	岩盤および地下構造物などからみた世界の土木史	岩盤および地下構造物などからみた世界の土木史を理解する
	4thQ	9週	現代生活にも不可欠な土木構造物の築造の歴史と将来への考察	現代生活にも不可欠な土木構造物の築造の歴史と将来への考察できる
		10週	地震学および地震防災技術の歴史	
		11週	戸建住宅の構造技術の歴史	
		12週	建築計画関連技術の歴史	
		13週	コンピュータの歴史：計算補助道具～機械式計算機～電気機械式計算機	計算補助具から機械式計算機へ、そして電気機械式計算機までの変遷を具体例を示して説明することができる
		14週	コンピュータの歴史：電子計算機の登場とその進化	電子計算機の登場とその進化の歴史について、具体的な史実を示して説明することができる
		15週	パソコンの登場、インターネットの歴史	パソコンの黎明期の様子、およびインターネットの登場と進化の歴史を、史実を基に説明することができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	30	100
分野横断的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	生産工学

科目基礎情報

科目番号	93011	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	生産工学入門、岩田一明監修、NEDEK研究会編著(森北出版)，ISBN4-627-91560-8　_x000D_副読本、生産システム工学、人見勝人（共立出版）		
担当教員	兼重 明宏		

到達目標

(ア)生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史について理解する。
(イ)材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題について理解することができる。
(ウ)生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援について説明できる。
(エ)システムの基本概念、最適化の原理、情報ネットワーク、エンジニアを支える技術、仮想生産について説明できる。
(オ)生産技術者の必要な能力、システム技術について説明できる。
(カ)製品設計、材料設計、生産設計および生産計画、設備計画、工程計画、作業計画について説明できる。
(キ)加工技術、検査技術、組立、搬送技術、RPの導入と効果、ハードウェア技術、ソフトウェア技術、センシング技術について理解する。
(ク)生産管理、品質管理、生産における設備保全、在庫管理について説明できる。
(ケ)生産工学の概念を総合的に理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(可)	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史について理解し，的確に説明できる。	生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史を理解できる。	生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史を理解できない。
評価項目(イ)	材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題を理解し，的確に説明できる。	材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題を理解できる。	材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題を理解できない。
評価項目(ウ)	生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援について的確に説明できる。	生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援について説明できる。	生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	ものを生産する歴史は、人間の歩みそのものであり、数千年の経過の中で、きわめて多くの「もの」を生み出してきた。機械、電気、電子、建築、土木など応用分野も多岐にわたる。生産に関わる工学、言い替えれば、知の体系化・理論化を一般に生産工学という。_x000D_　本講義では、人間社会のものづくりとの関わりについて歴史的な変化をふまえながら、生産活動の体系とそれを支える要素技術、その進歩について学習する。また、新製品の開発から製造まで、生産技術者としての必要な能力(企画、設計、計画)と生産に必要な生産技術、情報技術および運用・管理技術について学習する。
授業の進め方・方法	事前に調査を行い輪講形式で授業を行う．また，企業への見学を行う．
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。授業内容に関する課題（レポート）を課すので、決められた期日までに提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	ものづくりの歴史：生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史（ものづくりの歴史について調査する）	ものづくりの歴史：生産設備と生産形態の変遷、ものづくり技術の歴史を理解する
		2週	生産を取り巻く現状：材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題（材料，エネルギーの観点から製品のライフサイクルを検討する）	生産を取り巻く現状：材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題を理解する
		3週	生産を取り巻く現状：材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題（材料，エネルギーの観点から製品のライフサイクルを検討する）	生産を取り巻く現状：材料・エネルギー・情報、製品のライフサイクルと環境問題
		4週	生産活動体系と支える技術：生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援（生産活動を支える技術を調査する）	生産活動体系と支える技術：生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援を理解する
		5週	生産活動体系と支える技術：生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援（生産活動を支える技術を調査する）	生産活動体系と支える技術：生産プロセスにおける人間の役割、生産情報と管理情報の流れ、コンピュータによる生産支援を理解する
		6週	生産システムの進歩：システムの基本概念、最適化の原理、情報ネットワーク、エンジニアを支える技術、仮想生産（システムを最適化する技術を調査する）	生産システムの進歩：システムの基本概念、最適化の原理、情報ネットワーク、エンジニアを支える技術、仮想生産を理解する
		7週	生産システムの進歩：システムの基本概念、最適化の原理、情報ネットワーク、エンジニアを支える技術、仮想生産（システムを最適化する技術を調査する）	生産システムの進歩：システムの基本概念、最適化の原理、情報ネットワーク、エンジニアを支える技術、仮想生産を理解する
		8週	ものづくりのシステム技術：生産技術者の必要な能力、システム技術（最適化の原理、手法について調査する）	ものづくりのシステム技術：生産技術者の必要な能力、システム技術を理解する
	4thQ	9週	企画および評価：需要予測と製品企画、生産企画、材料企画（製品企画、生産企画および材料企画について調査する）	企画および評価：需要予測と製品企画、生産企画、材料企画を理解する
		10週	設計：製品設計、材料設計、生産設計（製品設計、材料設計、生産設計について調査する）	設計：製品設計、材料設計、生産設計を理解する

		11週	生産における計画と準備：生産計画、設備計画、工程計画、作業計画（各種計画について調査する）	生産における計画と準備：生産計画、設備計画、工程計画、作業計画を理解する
		12週	生産における計画と準備：生産計画、設備計画、工程計画、作業計画（各種計画について調査する）	生産における計画と準備：生産計画、設備計画、工程計画、作業計画を理解する
		13週	「ものの流れ」にかかわる要素技術：加工技術、検査技術、組立、搬送技術、RPの導入と効果（物の流れの技術について調査する）	「ものの流れ」にかかわる要素技術：加工技術、検査技術、組立、搬送技術、RPの導入と効果を理解する
		14週	「情報の流れ」にかかわる要素技術：ハードウェア技術、ソフトウェア技術、センシング技術（情報の流れについて調査する）	「情報の流れ」にかかわる要素技術：ハードウェア技術、ソフトウェア技術、センシング技術を理解する
		15週	運用・管理：生産管理、品質管理、生産における設備保全、在庫管理（生産、品質管理、設備保全について調査する）	運用・管理：生産管理、品質管理、生産における設備保全、在庫管理を理解する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	中間発表	最終発表	課題	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
専門的能力	60	20	10	10	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	材料加工プロセス

科目基礎情報

科目番号	93012	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	：「材料加工プロセス」山口克彦・沖本邦郎　編著　（共立出版）		
担当教員	林 伸和		

到達目標

(ア)工業材料の種類とその特徴を示すことができる。各種材料加工法を成形，除去，付加加工と分類できる。
(イ)鋳造加工の概念を理解し，特徴を述べることができる。各種鋳造法について説明できる。
(ウ)塑性加工法を分類し，特徴を述べることができる。圧延，押出し，引抜き，せん断，鍛造が理解できる。
(エ)粉末加工法の特徴を述べることができる。粉末冶金，焼結について理解し，説明できる。
(オ)切削，研削加工法の特徴を述べ，旋盤，形削り盤，中ぐり盤，フライス盤の加工機械が理解できる。
(カ)放電加工，電子ビーム熱加工，レーザ熱加工，エッチングによる除去加工の原理が理解できる。
(キ)ガス溶接，アーク溶接，スポット溶接，レーザ溶接などの接合法について理解できる。
(ク)フレキシブルマニファクチャリングシステムが理解できる。生産管理について考え方を示すことができる。
(ケ)長さ，角度，形状，表面，硬さの測定法を示すことができる。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	工業材料の種類とその特徴を示すことができる。各種材料加工法を成形，除去，付加加工と分類できる。		
評価項目(イ)	鋳造加工の概念を理解し，特徴を述べることができる。各種鋳造法について説明できる。		
評価項目(ウ)	塑性加工法を分類し，特徴を述べることができる。圧延，押出し，引抜き，せん断，鍛造が理解できる。		

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	われわれの身のまわりには自動車や電気製品，事務機器などの工業製品から，流し台や浴槽などの住宅用品，さらに食器や飲料缶などの身近な日用品に至るまで非常に多くの「もの」がある。このような「ものづくり」の工程において，材料加工はきわめて重要な位置を占めている。本講義では，各種の加工法を取り上げ，材料加工の基礎から先端技術までを大局的に把握できることを目標とする。
授業の進め方・方法	
注意点	

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	材料加工の概要：工業材料の種類，加工法，材料加工法の分類(課題：LCA調査)	
		2週	鋳造法：鋳造法の種類，金属組織，鋳造欠陥	
		3週	鋳造法：鋳造法の種類，金属組織，鋳造欠陥	
		4週	塑性加工：素材製造，せん断加工，鍛造，板成形，チューブハイドロフォーミング(課題：潤滑法の調査)	
		5週	塑性加工：素材製造，せん断加工，鍛造，板成形，チューブハイドロフォーミング(課題：潤滑法の調査)	
		6週	粉末加工：粉末の製造法，圧粉，焼結，焼結鍛造	
		7週	粉末加工：粉末の製造法，圧粉，焼結，焼結鍛造	
		8週	切削・研削加工：切削工具，研削砥粒と砥石，数値制御加工機械(課題：ドライ加工の調査)	
	2ndQ	9週	切削・研削加工：切削工具，研削砥粒と砥石，数値制御加工機械(課題：ドライ加工の調査)	
		10週	特殊加工：特殊加工の役割，放電加工，電子ビーム熱加工，レーザ熱加工	
		11週	マイクロ加工：化学反応による加工，除去加工，創成加工(課題：最近のマイクロ加工技術調査)	
		12週	溶接・接合：固相接合，ろう接，機械的結合，接着	
		13週	溶接・接合：固相接合，ろう接，機械的結合，接着	
		14週	生産・管理システム：自動生産システム，生産管理(課題：ISO9001およびISO14001調査)	
		15週	加工品の計測：長さの測定，角度の測定，形状の測定，表面の測定，硬さの測定，ひずみの測定	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
専門的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	材料強度学

科目基礎情報

科目番号	93013	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「金属の強度と破壊」黒木剛司郎、大森宮次郎　著　（森北出版）／事故解析や破壊に関するビデオ学習も併せて行う。		
担当教員	中村 裕紀		

到達目標

(ア)原子結合からみた弾性係数、フックの法則、弾性係数について理解する。
(イ)表面エネルギーを計算できる。
(ウ)固体の理論的引張強さを計算できる。
(エ)応力拡大係数について理解し、その計算をできるようにする。
(オ)小規模降伏条件について理解する。
(カ)平面ひずみ破壊じん性と破壊じん性に影響を及ぼす因子について理解する。
(キ)材料の破壊には様々な形態があり、破面様相から破壊の形態が推測できることを理解する。
(ク)機械構造物の健全性を確保するための工学的手法を理解する。

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	原子結合からみた弾性係数、フックの法則、弾性係数について理解する。		
評価項目(イ)	表面エネルギーを計算できる。		
評価項目(ウ)	固体の理論的引張強さを計算できる。		

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	材料の破壊現象に注目し、原子結合から始まり破面様相に至るまでの線形破壊力学の初歩的分野を理解するとともに、それらを用いて材料の強度と破壊との関連を明らかにする。さらに、機械構造物の健全性確保を目的とした設計や保守を合理的に行うための工学的手法について学ぶ。これらの学習を通じて、設計信頼性や安全性に関する知見を深めることを目的とする。
授業の進め方・方法	
注意点	事前に履修、修得しておくことが望ましい科目：「材料力学」、「機能性材料学」。授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	原子結合からみた弾性変形：結晶構造、結合力	
		2週	フックの法則と弾性係数：原子配列、原子間距離	
		3週	表面エネルギー：原子間結合力、比表面エネルギー（課題：表面エネルギーの計算）	
		4週	固体の理論的引張強さ：完全結晶、へき開破壊	
		5週	Griffith-Orowanの脆性破壊応力：脆性材料、欠陥	
		6週	Griffith-Orowanの脆性破壊応力：脆性材料、欠陥	
		7週	き裂先端の応力場、塑性域および破壊じん性：破壊力学、応力拡大係数（課題：応力拡大係数の計算）	
		8週	き裂先端の応力場、塑性域および破壊じん性：破壊力学、応力拡大係数（課題：応力拡大係数の計算）	
	2ndQ	9週	Dugdaleモデルと塑性域形状：小規模降伏、塑性変形	
		10週	平面ひずみ破壊じん性：不安定破壊、KIC	
		11週	平面ひずみ破壊じん性：不安定破壊、KIC	
		12週	破面様相とフラクトグラフィ：破壊、破面観察、粒内破壊、粒界破壊	
		13週	破面様相とフラクトグラフィ：破壊、破面観察、粒内破壊、粒界破壊	
		14週	機器の構造健全性保証と損傷許容設計：メインテナンス、非破壊検査、損傷許容	
		15週	機器の構造健全性保証と損傷許容設計：メインテナンス、非破壊検査、損傷許容	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
専門的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	機械振動学

科目基礎情報

科目番号	93016	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「振動工学（解析から設計まで）」　背戸一登・丸山晃市著 （森北出版）		
担当教員	若澤 靖記		

到達目標

(ア)身の回りの振動現象を例として振動の発生、増幅、持続の違いを理解する。
(イ)モデル化された1自由度振動系の運動方程式を導出し、振動特性の解析ができる。
(ウ)モデル化された2自由度振動系の運動方程式を導出し、振動特性の解析ができる。
(エ)自動車や鍛造機械などの実在物に対して多自由度振動系の数学的モデル化ができる。
(オ)3自由度自由振動モデルに対する基礎的な振動特性の解析のための計算ができる。
(カ)はりの曲げによる力のつりあいを理解し、運動方程式を導出することができる。
(キ)境界条件の異なる各種はりの曲げ振動に関する基本固有振動数を求めることができる。
(ク)機械作業現場や日常生活における振動の問題点を把握し、振動対策手法を理解する。
(ケ)振動の検出器、記録器および分析器について理解すると伴に、機械の振動特性の測定方法が説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	一自由度振動系を理解し、応用問題を解くことができる。	一自由度振動系を理解し、標準的な問題を解くことができる。	一自由度振動系を理解し、標準的な問題を解くことができない。
評価項目2	多自由度振動系を理解し、応用問題を解くことができる。	多自由度振動系を理解し、標準的な問題を解くことができる。	多自由度振動系を理解し、標準的な問題を解くことができない。
評価項目3	連続体振動系を理解し、応用問題を解くことができる。	連続体振動系を理解し、標準的な問題を解くことができる。	連続体振動系を理解し、標準的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	近年機械装置が大型化、高速化、複合化するに伴い、その設計にあたって動的挙動を考慮することが求められている。このような背景から振動工学の知識は、機械技術者として重要なものとなっている。 _x000D_本講義では、機械の動的挙動を理解するために、振動の基礎事項、多自由度振動、連続体の振動、機械振動の計測および振動の解析手法などについて学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	事前に履修しておくことが望ましい科目：機械力学A、B。_x000D_※ 授業後に必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また，決められた期日までの課題（レポート）提出を求める。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	振動の実例、振動の種類、調和振動の表示法などの振動の基礎	振動の実例、振動の種類、調和振動の表示法などの振動の基礎が理解できる。
		2週	1自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析	1自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析ができる。
		3週	1自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析	1自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析ができる。
		4週	2自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析	2自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析ができる。
		5週	2自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析	2自由度振動系へのモデル化による機械および構造物の動特性解析ができる。
		6週	多自由度振動系の振動解析手順および数学的モデル化	多自由度振動系の振動解析手順および数学的モデル化ができる。
		7週	多自由度振動系の振動解析手順および数学的モデル化	多自由度振動系の振動解析手順および数学的モデル化ができる。
		8週	モデル化された3自由度自由振動系の振動特性把握のための計算法	モデル化された3自由度自由振動系の振動特性把握のための計算法が理解できる。
	4thQ	9週	モデル化された3自由度自由振動系の振動特性把握のための計算法	モデル化された3自由度自由振動系の振動特性把握のための計算法が理解できる。
		10週	連続体の振動系に関する運動方程式の導出	連続体の振動系に関する運動方程式の導出できる。
		11週	連続体の振動系に関する運動方程式の導出	連続体の振動系に関する運動方程式の導出できる。
		12週	連続体の振動系の運動方程式の解およびその特性：境界条件と振動モード	連続体の振動系の運動方程式の解およびその特性：境界条件と振動モードが理解できる。
		13週	連続体の振動系の運動方程式の解およびその特性：境界条件と振動モード	連続体の振動系の運動方程式の解およびその特性：境界条件と振動モードが理解できる。
		14週	機械や構造物に発生する振動・騒音の問題点および問題となる振動の対策手法	機械や構造物に発生する振動・騒音の問題点および問題となる振動の対策手法が理解できる。
		15週	振動波形の検出方法および振動特性の解析	振動波形の検出方法および振動特性の解析が理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
専門的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	燃焼工学

科目基礎情報

科目番号	93017	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない／配布資料		
担当教員	鬼頭 俊介		

到達目標

(ア)燃料の種類およびその性質を理解する。
(イ)予混合燃焼および拡散燃焼の特徴、性質を理解する。
(ウ)点火、着火、爆発、消炎、最小点火エネルギについて説明できる。
(エ)燃焼速度、当量比、可燃限界の定義を説明できる。
(オ)燃焼に必要な理論酸素量および理論空気量を簡単な例について計算できる。
(カ)燃焼ガスの組成および発生量、燃焼温度を簡単な例について計算できる。
(キ)大気汚染物質の種類を挙げ、その性質、生成機構および低減法を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	燃料の種類および性質について理解し、用途および問題点について説明できる	燃料の種類および性質について理解する。	燃料の種類および性質について理解できない。
評価項目2	理論酸素量および理論空気量について理解し、簡単な例について計算できる。	理論酸素量および理論空気量について理解する。	理論酸素量および理論空気量について理解できない。
評価項目3	大気汚染物質の種類および性質について理解し、生成機構および低減法を説明できる。	大気汚染物質の種類および性質について理解する。	大気汚染物質の種類および性質について理解できない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	燃焼は化学エネルギを熱エネルギに変換する酸化反応のひとつであり、日常生活および産業活動を支える重要な存在である。一方で地球温暖化、大気汚染などの環境問題とも大きく関係している。本科目では始めに燃焼の概要について話し、次に具体的な予混合燃焼、拡散燃焼の例を挙げ，その特徴および性質について説明する。また、実際に燃焼を扱う上で重要となる燃焼反応および燃焼計算法について説明する。また、大気汚染物質の種類、その生成機構および抑制法について学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	（自学自習内容）授業後に必ず復習し，学習内容の理解を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	燃焼の概要、燃焼の基礎、燃料	燃料の種類およびその性質を理解する。
		2週	予混合燃焼、予混合火炎の構造、点火、着火、爆発、消炎、最小点火エネルギ	予混合燃焼の特徴、性質を理解する。点火、着火、爆発、消炎、最小点火エネルギについて説明できる。
		3週	予混合燃焼、予混合火炎の構造、点火、着火、爆発、消炎、最小点火エネルギ	予混合燃焼の特徴、性質を理解する。点火、着火、爆発、消炎、最小点火エネルギについて説明できる。
		4週	予混合燃焼、燃焼速度、当量比、可燃限界	予混合燃焼の燃焼速度、当量比、可燃限界について説明できる。
		5週	拡散燃焼、拡散火炎の構造	拡散燃焼の特徴、性質を理解する。
		6週	拡散燃焼、拡散火炎の構造	拡散燃焼の特徴、性質を理解する。
		7週	燃焼計算、理論酸素量および理論空気量、発熱量、燃焼ガスの発生量、組成	燃焼に必要な理論酸素量および理論空気量を簡単な例について計算できる。
		8週	燃焼計算、理論酸素量および理論空気量、発熱量、燃焼ガスの発生量、組成	燃焼に必要な理論酸素量および理論空気量を簡単な例について計算できる。
	2ndQ	9週	燃焼計算、理論酸素量および理論空気量、発熱量、燃焼ガスの発生量、組成	燃焼ガスの組成および発生量を簡単な例について計算できる。
		10週	燃焼計算、燃焼温度、断熱燃焼温度	燃焼温度について理解し、簡単な例について計算できる。
		11週	燃焼計算、燃焼温度、断熱燃焼温度	燃焼温度について理解し、簡単な例について計算できる。
		12週	燃焼反応、反応熱	燃焼反応、反応熱について説明できる。
		13週	燃焼反応、反応熱	燃焼反応、反応熱について説明できる。
		14週	大気汚染物質の生成	大気汚染物質の種類、性質、生成機構および低減法を説明できる。
		15週	前期の総まとめ	前期の内容を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100

専門的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	流れ学

科目基礎情報

科目番号	93018	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「水力学・流体力学」　市川常雄　著　（朝倉書店）　ISBN:978-4-254-23536-4／プリント等		
担当教員	小谷 明		

到達目標

(ア)圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。
(イ)圧縮性流体におけるピトー管の補正、先細ノズル、中細ノズル、衝撃波を理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。
(ウ)理想流体の二次元流れを理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。
(エ)流れの可視化の原理、数値解析の手法を理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解し、簡単なモデルに対して計算できる。	圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解できる。	圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解できない。
評価項目(イ)	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解し、簡単なモデルに対して計算できる。	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解できる。	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解できない。
評価項目(ウ)	理想流体の二次元流れを理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。	理想流体の二次元流れを理解できる。	理想流体の二次元流れを理解できない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	流体の力学に関する学問は、飛行機、自動車、扇風機などの周りの流体の流れ、エアコンの吹き出し口、ポンプや配管システムなどの内部の流体の流れなどが、それぞれの商品やシステムの性能向上に関与しているため必要とされている。本科目では、本学科の水力学をベースに、圧縮性流体の流れ、理想流体の二次元流れ、流れの可視化と数値解析の理解と基本的な解析方法および計算方法を学ぶ。
授業の進め方・方法	自学自習内容として、毎回の授業内容に相当する学習課題を指定された期日までに提出すること。
注意点	試験・課題ではキーワードを入れて論理的に記述し､常に単位を書くこと。 本講義は水力学IAおよび水力学IB，水力学IIの内容を理解していることを前提としている。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	圧縮性流体の流れ（１）：気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式	圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解し、計算できる。
		2週	圧縮性流体の流れ（１）：気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式	圧縮性流体における気体の状態変化、圧力波の速度とマッハ数、運動方程式を理解し、計算できる。
		3週	圧縮性流体の流れ（２）：ピトー管の補正、先細ノズル、中細ノズル、衝撃波	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解し、計算できる。
		4週	圧縮性流体の流れ（２）：ピトー管の補正、先細ノズル、中細ノズル、衝撃波	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解し、計算できる。
		5週	圧縮性流体の流れ（２）：ピトー管の補正、先細ノズル、中細ノズル、衝撃波	圧縮性流体におけるピトー管の補正、ノズル、衝撃波を理解し、計算できる。
		6週	理想流体の二次元流れ（１）：連続の式、オイラーの運動方程式	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		7週	理想流体の二次元流れ（２）：うず無し流れと速度ポテンシャル	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		8週	理想流体の二次元流れ（２）：うず無し流れと速度ポテンシャル	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
	4thQ	9週	理想流体の二次元流れ（３）：流れ関数、複素ポテンシャル	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		10週	理想流体の二次元流れ（３）：流れ関数、複素ポテンシャル	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		11週	理想流体の二次元流れ（４）：ポテンシャル流れの例	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		12週	理想流体の二次元流れ（４）：ポテンシャル流れの例	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		13週	理想流体の二次元流れ（５）：等角写像	理想流体の二次元流れを理解し、計算することができる。
		14週	流れの可視化と数値解析	流れの可視化の原理、数値解析の手法を理解できる。
		15週	流れの可視化と数値解析	流れの可視化の原理、数値解析の手法を理解できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
専門的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	パワーエレクトロニクス論

科目基礎情報

科目番号	93022	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「パワーエレクトロニクス入門」片岡昭雄著（森北出版）ISBN4-627-74091-3／配付プリント，「パワーエレクトロニクスノート 工作と理論」古橋　武　著，コロナ社，ISBN978-4-339-00795-4		
担当教員	伊藤 和晃		

到達目標

(ア)電力用半導体の特徴を理解できる。(d)
(イ)純抵抗負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。(d)
(ウ)誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。(d)
(エ)容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。(d)
(オ)降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解できる。(d)
(カ)インバータ回路の基本構成，動作原理を理解できる。(d)
(キ)インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解できる。(d)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(優)	最低限の到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目（ア）	電力用半導体の特徴を理解でき，応用例も理解できる。	電力用半導体の特徴を理解できる。	電力用半導体の特徴を理解できない。
評価項目（イ）	純抵抗負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解でき，応用問題を解くことができる。	純抵抗負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。	純抵抗負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できない。
評価項目（ウ）	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解でき，応用問題を解くことができる。	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できない。
評価項目（エ）	容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解でき，応用問題を解くことができる。	容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。	容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できない。
評価項目（オ）	降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解でき，応用問題を解くことができる。	降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解できる。	降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解できない。
評価項目（カ）	インバータ回路の基本構成，動作原理を理解でき，応用問題を解くことができる。	インバータ回路の基本構成，動作原理を理解できる。	インバータ回路の基本構成，動作原理を理解できない。
評価項目（キ）	インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解でき，応用問題を解くことができる。	インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解できる。	インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A1　電気エネルギーの運用（発生，輸送，変換）に関する原理，実用化への問題と代表的な解決策を説明できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	鉄道や電気自動車などの輸送機器，電化製品や携帯情報端末など，身近には様々な電気応用製品があふれ，もはや電気なくしての生活は考えられない。産業機器の高性能化は人々にとって便利で役立つものを数多く産み出してきた。最近では，同時に省エネルギーや環境性向上といったことにも注目が集まっている。これらを支える技術要素の背景の一つに，電力変換技術（パワーエレクトロニクス）がある。この講義では，パワーエレクトロニクスの基礎として，整流回路，チョッパ回路，インバータ回路について学ぶ。
授業の進め方・方法	
注意点	授業後に必ず復習し，学習内容を深めること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	パワーエレクトロニクス概説	電力用半導体の特徴を理解できる。
		2週	電力用半導体素子（ダイオード，サイリスタ，トランジスタ）	電力用半導体の特徴を理解できる。
		3週	整流回路Ⅰ（純抵抗負荷時の動作）	純抵抗負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
		4週	整流回路Ⅱ（誘導負荷時の動作）	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
		5週	整流回路Ⅱ（誘導負荷時の動作）	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
		6週	整流回路Ⅱ（容量負荷時の動作）	容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
		7週	整流回路Ⅱ（容量負荷時の動作）	容量負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
		8週	整流回路Ⅲ（交流側の歪み率と力率）	誘導負荷時の半波整流，全波整流の動作原理，回路構成を理解できる。
	2ndQ	9週	直流チョッパ	降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解できる。

		10週	直流チョッパ	降圧チョッパ回路，昇圧チョッパ回路，昇降圧チョッパ回路の回路構成，動作原理を理解できる。
		11週	インバータⅠ（電圧型，電流型インバータ）	インバータ回路の基本構成，動作原理を理解できる。
		12週	インバータⅠ（電圧型，電流型インバータ）	インバータ回路の基本構成，動作原理を理解できる。
		13週	インバータⅡ（ＰＷＭ方式，三相インバータ）	インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解できる。
		14週	インバータⅡ（ＰＷＭ方式，三相インバータ）	インバータ回路の問題点を改善した制御方法（PWM方式）を理解できる。
		15週	前期の総まとめ	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	中間試験	課題	合計
総合評価割合	50	30	20	100
専門的能力	50	30	20	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	機械設計工学

科目基礎情報

科目番号	93024	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない／プリント教材配布，「機械設計法」三田純義他（コロナ社）		
担当教員	田中 淑晴		

到達目標

(ア)用途に適した材料を選択できる。
(イ)軸受の機能を理解し、軸の強度計算、軸受の選択・強度計算ができる。
(ウ)目的に合った潤滑剤を選択できる。
(エ)歯車のすべり率，かみあい率が計算できる。
(オ)転位歯車について理解する。
(カ)アッベ誤差が計算できる。
(キ)ベルトとチェーンについて説明できる。
(ク)機械要素のトライボロジについて説明できる。
(ケ)位置決め装置について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	用途に適した材料の特性を理解し選択できる。	用途に適した材料を選択できる。	用途に適した材料を選択できない
評価項目2	軸受の機能と潤滑を理解し、軸の強度計算、軸受の選択・強度計算ができる。	軸受の機能を理解し、軸の強度計算、軸受の選択・強度計算ができる。	軸受の機能を理解し、軸の強度計算、軸受の選択・強度計算ができない
評価項目3	歯車のすべり率，かみあい率を理解し計算できる。	歯車のすべり率，かみあい率が計算できる。	歯車のすべり率，かみあい率が計算できない

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	本科では、設計法において機械要素やその強さ等の基礎的なことについて学んだ。専攻科においては、本科で学んだことをより深く理解し、発展的な内容を学ぶとともに、機械設計に関する幅広い知識を養う。材料の選択、軸の強度、種々の軸受の特性と強度計算、歯車の強度計算などについて理解することを目的としている。
授業の進め方・方法	
注意点	（自学自習内容）授業内容に関連する課題を決められた期日までに毎回提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）を理解できる
		2週	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）を理解できる
		3週	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）	機械設計用材料：材料の機械的性質、用途、軸受材料、（課題：材料に関する調査）を理解できる
		4週	軸受：すべり軸受、ころがり軸受、（課題：軸受に関する調査、設計計算）	軸受：すべり軸受、ころがり軸受、（課題：軸受に関する調査、設計計算）を理解できる
		5週	潤滑油・グリース：潤滑油・グリースの種類と給油法、（課題：潤滑に関する調査）	潤滑油・グリース：潤滑油・グリースの種類と給油法、（課題：潤滑に関する調査）を理解できる
		6週	ベルトとチェーン：平ベルト、Vベルト、歯付ベルト、（課題：ベルトとチェーンに関する設計計算）	ベルトとチェーン：平ベルト、Vベルト、歯付ベルト、（課題：ベルトとチェーンに関する設計計算）を理解できる
		7週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		8週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
	4thQ	9週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		10週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		11週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		12週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		13週	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）	位置決め装置の設計：構造、制御、熱変形、振動、アッベの原理、（課題：位置決め技術に関する調査）を理解できる
		14週	歯車の設計：かみあい率、すべり率、転位歯車、（課題：歯車に関する設計計算）	歯車の設計：かみあい率、すべり率、転位歯車、（課題：歯車に関する設計計算）を理解できる

		15週	機械要素のトライボロジ：摩耗、焼付き現象、ころがり疲れ、（課題：トライボロジに関する調査）	機械要素のトライボロジ：摩耗、焼付き現象、ころがり疲れ、（課題：トライボロジに関する調査）を理解できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
専門的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	油空圧システム工学

科目基礎情報

科目番号	93025	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「アクチュエータの駆動と制御」武藤高義　著（コロナ社）		
担当教員	上木 諭		

到達目標

(ア)サーボシステムの基本構成および動特性を理解する。
(イ)サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割や基本的な仕組みが分かる。
(ウ)油空圧アクチュエータの種類や作動原理、特徴を理解する。
(エ)油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解する。
(オ)油圧システムの基本構成を知り、油圧アクチュエータの基本的な構造や特性が分かる。
(カ)油圧制御弁の基本的な構造や特性を理解する。
(キ)空気圧システムの基本構成を知り、空気圧アクチュエータや制御弁の基本的な構造を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	理想的な到達レベルの目安（良）	理想的な到達レベルの目安（不可）
	サーボシステムの基本構成および動特性を理解でき、説明できる。	サーボシステムの基本構成および動特性を理解できる。	サーボシステムの基本構成および動特性を理解できない。
	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割や基本的な仕組みが理解でき、説明できる。	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割や基本的な仕組みが理解できる。	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割や基本的な仕組みが理解できない。
	油空圧アクチュエータの種類や作動原理、特徴が理解でき、説明できる。	油空圧アクチュエータの種類や作動原理、特徴が理解できる。	油空圧アクチュエータの種類や作動原理、特徴が理解できない。
	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解でき、説明できる。	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解できる。	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解できない。
	油圧システムの基本構成を知り、油圧アクチュエータの基本的な構造や特性が理解でき、説明できる。	油圧システムの基本構成を知り、油圧アクチュエータの基本的な構造や特性が理解できる。	油圧システムの基本構成を知り、油圧アクチュエータの基本的な構造や特性が理解できない。
	油圧制御弁の基本的な構造や特性が理解でき、説明できる。	油圧制御弁の基本的な構造や特性が理解できる。	油圧制御弁の基本的な構造や特性が理解できない。
	空気圧システムの基本構成を知り、空気圧アクチュエータや制御弁の基本的な構造を理解でき、説明できる。	空気圧システムの基本構成を知り、空気圧アクチュエータや制御弁の基本的な構造を理解できる。	空気圧システムの基本構成を知り、空気圧アクチュエータや制御弁の基本的な構造を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	サーボシステムの基本構成や特性、油圧ポンプ・モータの流量特性、電気・油圧サーボ弁を用いたアナログサーボシステムの特性、油空圧システムの基本的な制御方法および比例弁の特性を用いたアクチュエータのアナログ・ディジタル制御方法・特性など油空圧システム全般について学ぶ。また、マイコンを用いてこれらのシステムを制御する方式についても学ぶ。授業の進め方は、下記授業内容について受講者に予習を割り振り、発表日までに教科書の内容について理解してくる。特に教科書中の数式の誘導、図の意味するところを中心に関連する図書も調べ、授業日に発表を行う。
授業の進め方・方法	
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。授業内容に関する課題（レポート）を課すので、決められた期日までに提出すること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	油空圧システムの概要	油空圧システムの概要を理解する。
		2週	サーボシステムの基本構成および動特性、アナログサーボとディジタルサーボ（サーボ特性に関する課題）	サーボシステムの基本構成および動特性、アナログサーボとディジタルサーボを理解する。
		3週	サーボシステムの基本構成および動特性、アナログサーボとディジタルサーボ（サーボ特性に関する課題）	サーボシステムの基本構成および動特性、アナログサーボとディジタルサーボを理解する。
		4週	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割（マイクロコンピュータに関する課題）	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割を理解する。
		5週	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割（マイクロコンピュータに関する課題）	サーボシステムのコントローラ、センサ、マイクロコンピュータの役割を理解する。
		6週	アクチュエータの基本的な分類、油圧・空気圧アクチュエータの作動原理、特徴（アクチュエータの基本特性に関する課題）	アクチュエータの基本的な分類、油圧・空気圧アクチュエータの作動原理、特徴を理解する。
		7週	アクチュエータの基本的な分類、油圧・空気圧アクチュエータの作動原理、特徴（アクチュエータの基本特性に関する課題）	アクチュエータの基本的な分類、油圧・空気圧アクチュエータの作動原理、特徴を理解する。
		8週	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性（アクチュエータの基本特性に関する課題）	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解する。

	2ndQ	9週	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性（アクチュエータの基本特性に関する課題）	油空圧制御弁駆動用電動アクチュエータの構造および特性を理解する。
		10週	油圧システムの基本構成、油圧アクチュエータの構造および特性（アクチュエータの基本特性に関する課題）	油圧システムの基本構成、油圧アクチュエータの構造および特性を理解する。
		11週	油圧システムの基本構成、油圧アクチュエータの構造および特性（アクチュエータの基本特性に関する課題）	油圧システムの基本構成、油圧アクチュエータの構造および特性を理解する。
		12週	油圧制御弁の構造および特性、油圧サーボシステム（油圧制御弁の基本特性に関する課題）	油圧制御弁の構造および特性、油圧サーボシステムを理解する。
		13週	油圧制御弁の構造および特性、油圧サーボシステム（油圧制御弁の基本特性に関する課題）	油圧制御弁の構造および特性、油圧サーボシステムを理解する。
		14週	空気圧システムの基本構成、および空気圧アクチュエータ、制御弁	空気圧システムの基本構成、および空気圧アクチュエータ、制御弁を理解する。
		15週	空気圧システムの基本構成、および空気圧アクチュエータ、制御弁	空気圧システムの基本構成、および空気圧アクチュエータ、制御弁を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
専門的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	知識工学

科目基礎情報

科目番号	93026	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「BIG DATA」by Viktor Mayer-Scho:nberger & Kenneth Cukier (John Murray) ISBN978-1848547926		
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア) Students can explain the concept of big data
(イ) Students can describe three characteristic features of big data
(ウ) Students recognize the risks of data-driven decision makings
(エ) Students can distinguish correlational analysis from causational analysis
(オ) Students can explain a few effective examples of big data

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	Students can explain the concept of big data		
評価項目(イ)	Students can describe three characteristic features of big data		
評価項目(ウ)	Students recognize the risks of data-driven decision makings		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A4 コンピュータを利用した情報の保持・変換・伝達のための概念を理解し，説明できる.
JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	As engineers working in the century of knowledge, we should understand how some knowledge is created from daily dataflow from the society, and may be used in important decision makings. Big data is a recent and not well-defined concept but a naming of a series of processing ideas and methods handling such huge dataflow. It is different from well-established processing methods in the last century, depends on the huge processing power on recent computers, and has large benefits along with serious risks to our society. This lecture intends to summarize the basis of big data for young engineering students.
授業の進め方・方法	
注意点	The students are expected to have reseptive English skills of TOEIC 500 or higher, because all the lectures, discussions, asignments, and tests are to be done in English. The students are also required to read the assigned pages of the text before every lesson, write short summaries and present them to the class.

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	Two examples of showing social effect from big data	
		2週	The outline of three shifts of information analysis caused by big data	
		3週	Processing ALL data instead of some samples	
		4週	Handling messy data	
		5週	Leaving causality to satisfying with correlations	
		6週	Leaving causality to satisfying with correlations	
		7週	Datafication: turning data into valuable information	
		8週	Datafication: turning data into valuable information	
	4thQ	9週	Value: non-rivalrous option value of data	
		10週	Value: non-rivalrous option value of data	
		11週	Implications: data, skills, and ideas for the value chain	
		12週	Implications: data, skills, and ideas for the value chain	
		13週	Risks : privacy, punishment based on the probability, dictatorship of data	
		14週	Control: from privacy to accountability, the algorithmist	
		15週	Next: when data speaks, the bigger data	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	40	60	100

専門的能力	40	60	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	通信システム

科目基礎情報

科目番号	93027	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「通信工学概論［第三版］」山下不二男、中山隆清、中津原克己(森北出版)　ISBN978-4-627-70593-7		
担当教員	大野 亙		

到達目標

(ア)信号波が周波数スペクトルで表現されることを理解し、簡単な信号波を周波数領域へと変換することができる。
(イ)振幅／周波数変調など基本的な変調方式の理論が理解でき、数学的に記述することができる。
(ウ)アナログ、ディジタルの両変調方法の差異、それぞれの利点、欠点を説明できる。
(エ)各種伝送方式に必要な、中継伝送の技術について説明できる。
(オ)電話などの通信ネットワークの構成要素について説明できる。
(カ)イーサーネット，インターネットの概要が説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	信号波が周波数スペクトルで表現されることを理解し、簡単な信号波を周波数領域へと変換することができる。	信号波が周波数スペクトルで表現されることを理解できる。	信号波が周波数スペクトルで表現されることを理解できない。
評価項目(イ)	振幅／周波数変調など基本的な変調方式の理論が理解でき、数学的に記述することができる、アナログ、ディジタルの両変調方法の差異、それぞれの利点、欠点を説明できる。	振幅／周波数変調など基本的な変調方式の理論が理解でき、アナログ、ディジタルの両変調方法の差異を説明できる。	振幅／周波数変調など基本的な変調方式の理論が理解できない。
評価項目(ウ)	各種伝送方式に必要な、中継伝送の技術について説明できる。 電話、インターネットなどの通信ネットワークの構成要素について説明できる。	電話、インターネットなどの通信ネットワークの構成要素について説明できる。	電話、インターネットなどの通信ネットワークの構成要素について説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A4　コンピュータを利用した情報の保持・変換・伝達のための概念を理解し，説明できる.
JABEE d　当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
本校教育目標 ① ものづくり能力

教育方法等

概要	情報通信においてデータは振幅変調や周波数変調などの変調を行なうことで、信号として情報を伝達することが出来る。しかし、実際の電話通信網などにおいては、単純な変調復調のみではなく、各種伝送路の特性のよる信号の減衰や変形に対する補正、遠距離の伝送のための中継伝送の考え方が必要となる。本講義では，本科５年の「通信システム工学」の内容の復習確認するとともに、通信システムの構成要素である、伝送路、中継伝送システムについての基本的な理論と概要を学習する。
授業の進め方・方法	
注意点	本科５年の通信システム工学の内容を修得していることを前提に授業を進める。（自学自習内容）授業内容に該当する項目について必ず復習し，学習内容の理解を深めること。また与えられた課題は確実に解くこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	通信伝送の基礎：通信システムの構成、基本的な情報通信	通信システムの構成、基本的な情報通信がりかいできる
		2週	フーリエ変換：フーリエ級数展開、フーリエ変換、逆変換　（課題：級数展開，変換の計算）	フーリエ級数展開、フーリエ変換、逆変換が理解できる
		3週	フーリエ変換：フーリエ級数展開、フーリエ変換、逆変換　（課題：級数展開，変換の計算）	フーリエ級数展開、フーリエ変換、逆変換の計算ができる
		4週	アナログ伝送：AM変調、FM変調、変復調器	AM変調について理解できる
		5週	アナログ伝送：AM変調、FM変調、変復調器	FM変調について理解できる
		6週	ディジタル伝送：符号化の理論、標本化定理、伝送システム　（課題：変調に関する計算）	符号化の理論、標本化定理について理解できる
		7週	ディジタル伝送：符号化の理論、標本化定理、伝送システム　（課題：変調に関する計算）	デジタル伝送システムについて理解できる
		8週	信号の多重化：FDM,TDM,CDMなどの多重伝送の基礎	FDM,TDMなどの多重伝送について理解できる
	2ndQ	9週	信号の多重化：FDM,TDM,CDMなどの多重伝送の基礎	CDMなどの多重伝送についてりかいできる
		10週	伝送路線：各種伝送路の形態および、特性　（課題：伝送路理論に関する計算）	有線伝送路の形態および、特性について理解し、簡単な計算ができる
		11週	伝送路線：各種伝送路の形態および、特性　（課題：伝送路理論に関する計算）	無線伝送路の形態および、特性について理解できる
		12週	通信システム：中継伝送、電話通信網	中継伝送について理解できる
		13週	通信システム：中継伝送、電話通信網	電話通信網について理解できる
		14週	広域ネットワーク網：TCP/IPによるインターネットの構造　（予習：配布プリントによる予習）	TCP/IPによるインターネットの構造の基礎が理解できる
		15週	広域ネットワーク網：TCP/IPによるインターネットの構造　（予習：配布プリントによる予習）	TCP/IPによるインターネットの通信プロトコルの基礎が理解できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合			
	定期試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
専門的能力	60	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	電気英語コミュニケーションⅡ

科目基礎情報

科目番号	93029	科目区分	専門 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材	「めざせ100万語！読書記録手帳」SSS英語学習法研究会 ISBN978-4902091267、Oxford Bookworms Library Level 4 (OBW4)他、英文多読用図書		
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア)日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書することができる。(g)
(イ)基本語1400～1900語水準（YL4.5）の英文を、連続して90分以上読み続けることができる。(f)
(ウ)基本語1400～1900語水準（YL4.5）の英文を、毎分100語以上で読み、概要を把握することができる。(f)
(エ)課外学習も含めて、１年間で延べ25万語以上の易しい英文を読んでいる 。(g)
(オ)TOEIC500点相当以上の英語コミュニケーション能力を有する 。(f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	日本語を介さずに理解できる英文の水準を自ら選び、自律的・継続的に読書することができる。(g)		
評価項目(イ)	基本語1400～1900語水準（YL4.5）の英文を、連続して90分以上読み続けることができる。(f)		
評価項目(ウ)	基本語1400～1900語水準（YL4.5）の英文を、毎分100語以上で読み、概要を把握することができる。(f)		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 D4　基本語彙からなる英文を，日本語を介することなく読み，大意を把握できる.
学習・教育到達度目標 D5　自律的，継続的な学習により，TOEIC450点相当以上の英語運用能力を身につけている.
JABEE f　論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE g　自主的、継続的に学習する能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	技術のグローバル化に伴い、英語によるコミュニケーション・スキルの習得は、電気・電子技術者にとり不可欠となっている。本講では、プログラム全修了生が、英語コミュニケーションの基盤となる４技能を身につけ、また、プログラム修了後も学習を継続できるようになることを目指す。やさしい英文を日本語を介さないで大量に読み聴く多読・多聴をベースに、正確さよりも流暢性を優先した演習を行う。
授業の進め方・方法	
注意点	電気英語コミュニケーションⅠを修得していることを想定して授業を進める。課題評価は、読書記録（10%、H30年3月～31年2月の累積）、外部試験（30%、H29年度以降に受験したTOEIC IPCまたは公開受験結果）により行う。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	英語コミュニケーション・スキルを身につけるための学習法の解説	
		2週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		3週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		4週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		5週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		6週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		7週	リーディング・リスニング教材を用いた多読・多聴演習：	
		8週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
	2ndQ	9週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
		10週	ライティング演習（毎回5分間のフリーライティング）	
		11週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		12週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		13週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		14週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	

		15週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		16週		
後期	3rdQ	1週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		2週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		3週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		4週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		5週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		6週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		7週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		8週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
	4thQ	9週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		10週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		11週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		12週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		13週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		14週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		15週	スピーキング演習（最近の読書内容他、定められたテーマについて英語で説明し、担当教員の質問に英語で答える）	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	10	50	40	100
専門的能力	10	50	40	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	特別研究Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	93203	科目区分	専門 / 必修
授業形態	研究	単位の種別と単位数	学修単位: 8
開設学科	電子機械工学専攻E	対象学年	専2
開設期	通年	週時間数	前期:8 後期:8
教科書/教材			
担当教員	西澤 一		

到達目標

(ア)倫理観を踏まえた上で，研究の背景と目的を理解し，研究に必要な情報・知識を収集・習得できる。 (e)
(イ)基礎的な知識・技術を基に実験や調査などの研究計画を立案できる。 (e)
(ウ)実験や調査をして，信頼性の高いデータを収集できる。 (h)
(エ)創造性を発揮して課題を探求し，問題点を自ら解決することができる。 (e)
(オ)研究結果を工学的手法によって解析し，考察することができる。 (h)
(カ)プレゼンテーション資料を作成し，口頭で研究内容をわかりやすく説明でき，また他の学生の研究内容を理解し討論できる。 (f)
(キ)研究の背景，目的，方法，結果，考察などをまとめた修了論文を作成できる。 (f)

ルーブリック

	最低限の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	倫理観を踏まえた上で，研究の背景と目的を理解し，研究に必要な情報・知識を収集・習得できる。 (e)		
評価項目(イ)	基礎的な知識・技術を基に実験や調査などの研究計画を立案できる。 (e)		
評価項目(ウ)	実験や調査をして，信頼性の高いデータを収集できる。 (h)		

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 C1 研究の背景を自ら調査・整理し，よく理解している.
学習・教育到達度目標 C2 技術的な問題点や社会における課題を明確にした上で，研究目的を設定し，研究方法を設計できる.
学習・教育到達度目標 C3 専門的知識や技術レベルを考慮したうえで研究日程を立案・実行し，必要に応じて修正することにより，計画的，継続的に研究できる.
学習・教育到達度目標 C4 工学的手法によりデータを解析し，考察できる.
学習・教育到達度目標 C5 複数の解決案を比較検討する等により，解決策を選択できる.
学習・教育到達度目標 D1 実験・研究内容を整った章立てに従い，分りやすい日本語で記述できる.
学習・教育到達度目標 D2 研究内容を聴衆に合わせて分かりやすい日本語で発表できる.
学習・教育到達度目標 D3 他者の発表内容を理解し，的確に質問できる.
JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
本校教育目標 ① ものづくり能力
本校教育目標 ③ 問題解決能力
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	各学生が各教員の指導のもとに独自の特別研究課題を遂行するとともに，特定分野について深く専門の内容を掘り下げ，理解を深める。また，倫理観を持ち，創造的で計画的かつ継続的に研究を進める姿勢を身につける。さらに，研究課題に基づき，研究の背景，目的，方法，結果，考察などをまとめた修了論文を作成するとともに，口頭で研究内容を発表する。
授業の進め方・方法	
注意点	単位時間の配分は平均的な目安であり、研究指導教員によって差異がある。なお，本科目は特例認定専攻科における学修総まとめ科目である。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	特別研究Ⅰに引き続き，先行研究を踏まえた研究内容の理解	
		2週	各研究課題に必要な情報の収集および知識の習得：専門書，論文誌，インターネット検索などの利用	
		3週	各研究課題に必要な情報の収集および知識の習得：専門書，論文誌，インターネット検索などの利用	
		4週	各研究課題に必要な情報の収集および知識の習得：専門書，論文誌，インターネット検索などの利用	
		5週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
		6週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
		7週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
		8週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
	2ndQ	9週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
		10週	実験，調査・データ収集，プログラムの作成等：信頼性のある実験データ収集法の習得	
		11週	研究結果の解析・考察： 実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	

		12週	研究結果の解析・考察：　実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		13週	研究結果の解析・考察：　実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		14週	研究結果の解析・考察：　実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		15週	研究結果の解析・考察：　実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		16週		
後期	3rdQ	1週	研究結果の解析・考察：　実験で得られた結果の科学的分析や数理手法を用いた解析	
		2週	研究発表用資料の作成：　研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）の作成	
		3週	研究発表用資料の作成：　研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）の作成	
		4週	研究発表用資料の作成：　研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）の作成	
		5週	研究発表用資料の作成：　研究発表会用のプレゼンテーション資料（パワーポイント，ポスター等）の作成	
		6週	研究成果の発表：　研究内容の端的かつ明瞭な発表手法の習得	
		7週	研究成果の発表：　研究内容の端的かつ明瞭な発表手法の習得	
		8週	研究成果の発表：　研究内容の端的かつ明瞭な発表手法の習得	
	4thQ	9週	研究成果の発表：　研究内容の端的かつ明瞭な発表手法の習得	
		10週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		11週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		12週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		13週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		14週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		15週	修了論文の作成：　研究背景，目的，方法，結果，考察等のまとめ	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	修了論文	研究発表	合計
総合評価割合	60	40	100
専門的能力	60	40	100